



『モノグラフ・高校生』vol.64

専門高校で学ぶ生徒たち

- 1982年調査と対比して -

要約

① 学業成績の変化

中学1年生の頃、数学がわかった割合は30.6%で、82年調査の19.8%より、10.8%も上回った。20年の間に、専門高校の入学者の学力が高まっている(p.9 図1、p.10 表3)

② 入学したかったか

入学したかった割合は43.9%で、普通高校の33.2%を10.7%上回っている。入学したいと思う専門高校が多いことを暗示している(p.11 図2、表5)

③ 入学にあたって

「専門的な教育を受けられ、やりたい仕事に役立つ」を入学にあたって重視している(p.12 表6)

④ 高校生活について

平均すると、普通高校は「のびのび」、専門高校は「生活指導に熱心」である。ただし、専門高校によって、学校の雰囲気に関心が大きい(p.14 図3、p.15 表8、p.16 図4、p.17 表9)

⑤ 高校生活のはりあい

82年調査と比べ、学校内でのはりあいは「専門科目の実習をしているとき」が45.2%から73.3%へ増加し、「専門科目の授業を受けているとき」が26.3%から53.7%へ倍増している(p.17 表10、p.18 図5)

⑥ 授業の理解度

82年調査と比べ、英語や数学の理解度はほとんど変わらないが、専門科目の理解度は57.3%から63.5%へ上昇している(p.19 表12)

⑦ 中学時代と比べ

82年調査と比べ、「興味・関心に合った勉強が増え、気の合う仲間が多く、校則も緩やかで、全体に楽しくなった」という反応が大きく増加している(p.22 図6、p.23 表20)

⑧ 学校生活の気分

82年調査と比べ、「自分の興味・関心に合った勉強ができ、入学してよかった」という評価が高まっている(p.25 表22、図7)

⑨ 高校への満足感

全体としての高校への満足感は「とても満足」と「かなり」で34.7%にとどまる。普通高校の46.2%より1割程度評価が低い（p.28 表26、p.29 図8）

⑩ 高校卒の資格

高校卒の資格を「なんとしても必要」と思う割合は45.5%、「かなり」の29.4%を含めると、74.9%に達する（p.30 表29）

⑪ 疲れ傾向

「何となくムカムカする」や「何となく食欲がない」などの感情は、専門高校と普通高校とでほとんど開きが認められない（p.32 図9、p.33 表32）

⑫ 進路

82年調査では就職希望率が69.3%だった。しかし、01年調査になると就職希望率は37.6%にとどまる。20年の間に、専門高校が就職から進学へ性格を変えはじめているのであろう（p.37 表37）

⑬ 不況の影響

不況で仕事が見つからないと不安感を抱く生徒は、「とても感じている」と「かなり」を含めると67.8%に達する（p.38 表40）

⑭ 将来の可能性

全体として、将来の生活に自信を抱いていて、82年調査より、自信が増加している（p.40 表44、p.41 図10）

[全体として]

01年調査では、82年調査（職業科調査）と対比させて、20年前との比較を試みると同時に、現在の普通高校との対比を試みた。その結果によると、専門高校は専門性を中心にして学校作りをしており、そうした努力は実を結んだようで、生徒からよい評価を得ていた。普通高校との差が減り、独自のカラーを持つ専門高校が増加してきたように思える。

[調査概要]

対象 全国の専門高校7校の1～3年生

時期 2001年6月～7月

方法 学校通しによる質問紙調査

サンプルの構成 (人)

	男子	女子	合計
農 林	181	203	384
工 業	354	111	465
商 業	73	341	414
水 産	288	7	295
家 政	5	218	223
看 護	5	214	219
総 合	164	284	448
全 体	1,070	1,378	2,448

第1章 ||||

テーマ設定と調査の枠組み

1 普通科と実業科との二元化

一昨年の夏、徳島で開かれた専門高校の全国大会に講師として招かれた。先生方との話し合いも持ったが、市内の各所に生徒たちの作品が展示されていた。専門高校というと、質実とか地道とかというイメージが浮かぶ。しかし、市内で見かけたのは現代風の明るい生徒たちだった。先生の話でも、職業高校から専門高校に名称が変わったが、高校の内容も変容しているという。

歴史的にとらえると、中等教育は普通高校（旧制中学）と実業高校（旧制商業や工業）の二系列から成り立っていた。旧制中学は、旧制高校や専門学校などの高等教育への進学を目的とする学校として成立してきたのに対し、実業的な商業や工業学校は、地域に根ざした中堅商業人や技術者の育成を目指した学校であった。実際に、県レベルでとらえた場合、銀行や百貨店の中枢は商業学校出身者で固められていたし、地元の農業のリーダーは農業学校の卒業生だった。そうした実績をふまえて、静岡中と静岡商、水戸中と水戸商の

ように、中学と実業学校はタイプを異にする対等の学校として機能してきた。受験倍率の面でも、中学と実業学校とはほぼ同じレベルの難関校だったのは、史実が示す通りである。第二次大戦後でも、実業学校は商業や工業を中心に中堅層の養成という機能を果たしてきたが、大学進学率が高まり、普通科への進学が主流になるにつれて、高校進学は普通科進学と同意語のようになり、実業学校は学校本来の目的と異なり、学力的に普通科へ進学できない生徒の進学先とみなされがちであった。その結果、実業学校は底辺校という評価を下されることが多かった。

現在、高校卒業後の進学率は5割に迫っており、専門高校からの進学もめづらしくない。そうすると、普通科と専門高校とを進学と就職という進路へ対応した二元化したとらえ方は現実的でなくなる。

普通科は高校で共通性の強い学習をして、大学で専攻別の学習へ進む形なのに対し、専門高校は高校段階で個別化された学習をし

て、その体験を基に、大学に進むスタイルになる。そうした意味では、専門高校の方が、

自分に適した進路選択を早めに行っているといえるのかもしれない。

2 調査のデザイン

1) サンプル校

専門高校の果たす役割が変わってきた。そこで、変化している専門高校生の意識を探ってみたいと思った。

財団法人産業教育振興中央会の協力を得て、専門高校に通う生徒たちの意識調査を行うことにした。財団法人産業教育振興中央会は専門高校全体を束ねる機関なので、同会に依頼して、商業や工業など、学校種別に優れた実績を残している高校を推薦してもらうことにした。専門高校の中には、さまざまな理由から苦戦をしている学校もあると聞く。しかし、本調査では、実践的に工夫をこらし、うまくいっている学校を選んで、専門高校の可能性を探りたいと思った。財団法人産業教育振興中央会は、商業や工業、農業などそれぞれの学校種別に校長会と協議して、それぞれ1校の調査協力校を決定した。学校種別の調査協力校のサンプル数は以下の通りである。

	男子	女子	合計
A 農林	181名	203名	384名
B 工業	354	111	465
C 商業	73	341	414
D 水産	288	7	295
E 家政	5	218	223
F 看護	5	214	219
G 総合	164	284	448
全 体	1,070	1,378	2,448

こうした調査の場合、調査としての厳密さとサンプル（調査校）のプライバシーとのバランスが問題になる。特に専門高校の場合、学校ごとの開きが大きいから、農業高校でも、

A校かB校かが問題になる。しかし、学校のプロフィールを細かく描くと、調査に協力してくれた学校をはっきりと示すことになり、学校に迷惑がかかる可能性が生まれる。そうかといって、単なる商業高校では調査結果を解釈できない。

そうした状況を配慮しつつ、各学校のプロフィールを紹介すると、以下のようになる。

A 農林高校 = 明治40年代に関東地方の郡立農林学校として開校。昭和23年に県立農業高校に改組。現在は農業科、園芸科、畜産科、緑地土木科、農業経済科、生活科学科、生物生産科、動物科学科、食品文化科の9学科構成。現在、男子369名、女子318名、計687名在籍。平成12年の卒業生の場合、進学率は専修学校への進学を含めて49%である。

B 工業高校 = 明治30年代に東北の県立工業学校として開校。昭和23年に県立工業高校に改組。現在は機械、電気、情報技術、土木、建築、地質工学、材料技術、工業化学の8学科構成。現在は男子846名、女子187名、計1,033名が在籍。平成12年卒業生の場合、進学率は54%である。

C 商業高校 = 昭和初めに東京近郊の町立商業学校として設立。昭和23年に県立商業高校に改組。現在は商業科と情報処理科の2科構成。男子156名、女子629名、計785名が在籍。平成12年の進学率は37%。

D 水産高校 = 明治20年代末に東北の郡立簡易水産学校として設立。明治30年代に水産学校へ改称。昭和23年に県立水産高校へ改組。現在は海洋総合科、情報科学科、漁業科、水産製造科、栽培漁業科、機関科、無線通信科の7科。3学年で423名が在籍。平成12年の進学率は23%。

E 高校家政科 = 昭和初めに都内の私立女学校として開校。昭和23年に都立高校へ改組。昭和20年代に家政科を併置。家政科は各学年2学級で約240名在籍。

F 高校衛生看護科 = 昭和20年代に東北の公立高校として設置。昭和40年代に衛生看護科に改組。現在238名が在籍。平成12年の進学率は85%。

G 高校総合科学科 = 昭和20年代初めに実務学校として創立。その後、国立大学付属高校となる。平成6年に総合科学科に改組。現在、男子174名、女子301名、計475名が在籍。平成12年の進学率は77%。

2) 調査票の構成

専門高校についての調査結果が得られても、それだけでは判断を下しにくいように思った。具体的に考えると、仮に「学校へ通う楽しさ」が30%という結果が得られたとして、その30%が普通高校と比べ高いのか、それとも、過去の数値と比べどう変わったのか、そして、学校種別でどうなっているのかが気になる。

そこで、今回の調査では、①専門高校（職業高校）を対象とした過去の調査結果との対比、②最近の普通高校の生徒を対象とした結果との対比、③専門高校独自の項目との3つの項目群を用意した。

(1) 1982年職業科調査との比較

職業科の生徒（4,583名）を対象として、高校生の意識を分析する調査を1982年に実施した。結果は『モノグラフ・高校生 83』Vol. 8「職業科に学ぶ高校生 過去・現在・未来の生活と意識」（以下、82年調査）に詳しいが、そのすべてを使って比較することはできないので、82年調査の中から今回の調査（以下、01年調査）に使用した項目を示すと以下の通りである。

- ①学校でのほりあい（設問7をそのまま設問8へ）
- ②授業の理解（設問11をそのまま設問9へ）

- ③学校生活の気持ち（設問8を設問10へ。「先生に親しみを感じる」「校則をまもらない」の2項目をカットして、「普通科へ転科したい」「専門高校の他の科へ行きたい」の2項目を加え、残り12項目はそのまま）
- ④中学時代の授業理解（設問14をそのまま設問17へ）
- ⑤中学時代と比べ（設問13をそのまま設問18へ）
- ⑥進路（設問23をそのまま設問19へ）
- ⑦就職後の生活（設問28をそのまま設問21へ）
- ⑧就職後の暮らし（設問30を設問24へ。「プロのスポーツ選手になる」をカットして、残り19項目はそのまま）
- ⑨人生設計（設問32をそのまま設問27へ）
- ⑩結婚後の暮らし（設問33を設問28へ。「親が年をとったら老後の面倒はできるだけみたい」をカットして、残り11項目はそのまま）

(2) 普通科の生徒との対比

普通科の生徒との比較を行うため、この1、2年に実施した調査の中から、項目を選ぶことにした。具体的には、サンプルやテーマなどから、専門高校との比較が可能な調査を絞り込み、以下の3冊を選んだ。

- A「高校生の描く21世紀像」（『モノグラフ・高校生』Vol. 59, 1999年調査）
 - B「高校生の自我像 『自分探し』をする高校生」（『モノグラフ・高校生』Vol. 60, 2000年調査）
 - C「高校生が『学校』で身につけるもの『特色のある学校』と対比させて」（『モノグラフ・高校生』Vol. 61, 2000年調査）
- そして、この3調査の中から、専門高校生との比較に適すると思われる項目を抜き出した。その項目は、以下の通りである。
- ①部活動（A調査の設問2に「その他」を加え、設問2へ）
 - ②入りたい高校（C調査の設問3をそのまま設問4へ）

- ③どんな高校（C調査の設問6に「専門科目が充実している」と「就職指導に熱心」の2項目を加え、設問6へ）
- ④高校に満足（C調査の設問8をそのまま設問11へ）
- ⑤結婚の形（A調査の設問7をそのまま設問25へ）
- ⑥妻の生活（A調査の設問8をそのまま設問26へ）
- ⑦将来の生活（A調査の設問6のうち、「親から自立して暮らしている」「好きな相手と結婚している」「子どもに恵まれている」の3項目をカットして、残り5項目を設問29へ）
- ⑧高齢化（A調査の設問13をそのまま設問30へ）
- ⑨アルバイト（C調査の設問28をそのまま

設問32へ）

- ⑩自分の気持ち（C調査の設問29をそのまま設問33へ）
- ⑪日ごろの気持ち（B調査の設問11をそのまま設問34へ）

（3）専門高校調査独自の項目

（1）（2）以外の項目が今回独自の項目だが、これを整理すると、以下のようになる。

- ①専門高校（職業高校）との比較＝設問8、9、10、17、18、19、21、24、27、28の10項目
- ②普通高校との比較＝設問2、4、6、11、25、26、29、30、32、33、34の11項目
- ③今回独自の項目＝設問3、5、7、12、13、14、15、16、20、22、23、31の12項目

第2章 |||||

高校生活の楽しさ

1 入学までの気持ち

1) 学力の変化

この調査に協力してくれたサンプルは、表1のように、商業や工業などの7種別の高校に通う2,448名だった。

部活動の参加についてのデータは表2の通りだが、表中の「専門」は今回の専門高校についての調査結果で、「普通」はすでにふれたように、普通高校を対象に実施したここ1、2年の調査からの数値である。

表1 サンプルの構成

(人)

	男子	女子	合計
農林	181	203	384
工業	354	111	465
商業	73	341	414
水産	288	7	295
家政	5	218	223
看護	5	214	219
総合	164	284	448
全体	1,070	1,378	2,448

全体としてみると、「運動部に熱心に参加している」のは、普通高校の38.0%に対し、専門高校は29.1%にとどまる。甲子園の高校野球には商業高校や農林高校が数多く出場しているし、ラグビーやサッカーでも専門高校の名前を見かける。それだけに、専門高校は部活動が盛んだと思っていた。しかし、本サンプルの場合、水産や工業は部活動が盛んだ

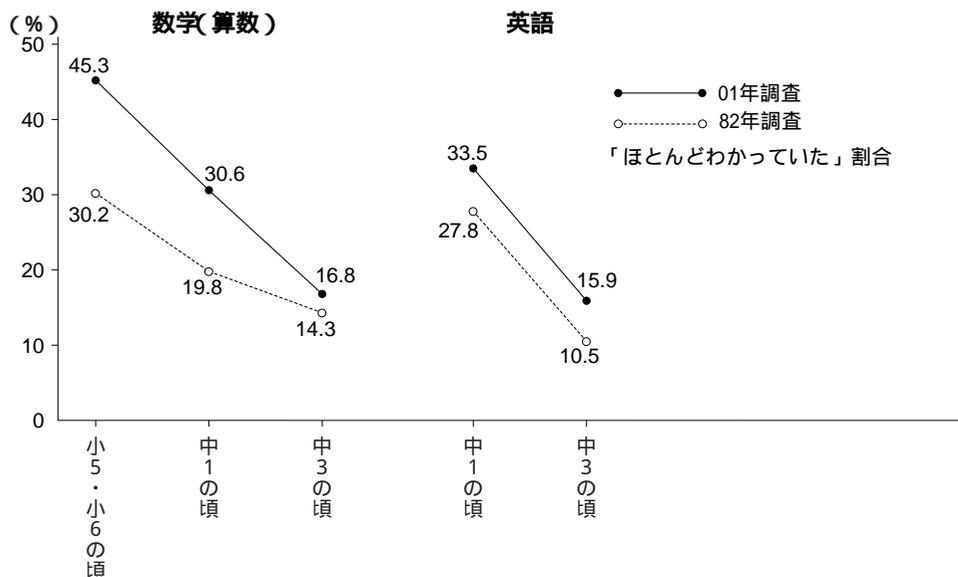
が、部活動がそれほど活発でない学校もみられる。

それでは、入学までの学業成績はどうなっているのか。詳しくは図1(表3)を参照してほしいが、82年調査(すでにふれたように、82年に職業高校生を対象とした調査)と対比させると、小・中学生の頃、授業がわかってきたと答える生徒の割合が高まっている。

表2 部活動 × 学校種別

	運動部		文化部		退部した	入ったことがない	その他
	熱心	不熱心	熱心	不熱心			
専門	29.1	10.7	10.9	13.2	20.0	12.8	3.2
普通	38.0	10.8	9.8	5.9	19.9	15.6	—
農林	20.2	9.2	10.7	7.3	23.6	23.0	6.0
工業	39.8	5.4	9.6	4.8	18.5	18.7	3.3
商業	23.5	10.9	12.4	28.6	19.7	3.9	1.0
水産	41.8	13.4	4.8	11.3	25.0	2.1	1.7
家政	29.4	4.5	12.7	13.6	19.0	17.2	3.6
看護	34.7	5.0	18.3	16.0	14.2	8.7	3.2
総合	19.8	21.3	10.8	12.4	19.1	12.8	3.8

図1 学業成績の変化 82年調査との比較



率直に言って、これまで職業科は普通科より、勉強が苦手な生徒が入学するとみなされていた。普通科受験の受け皿としての職業科という見方である。しかし、01年調査によれば、中1の頃、数学の授業がわかった割合が82年調査より1割以上上回っている。専門高校へ入学する生徒の学力が高まり、普通科の

受け皿的な性格が弱まってきたのかもしれない。これは、専門高校本来の役割に近づいたように思われてくる。

なお、表4によれば、そうした学力は学校種別によって異なり、特に看護などは勉強が得意の割合が高い。

表3 学業成績の変化 82年調査との比較

			(%)			
			ほとんどわかって いた	半分以上 わかって いた	あまり わからな かった	ぜんぜん わからな かった
数学 (算数)	小5・小6の頃	01年調査	45.3	30.3	18.9	5.5
		82年調査	30.2	36.7	27.0	5.9
	中1の頃	01年調査	30.6	39.0	23.5	6.9
		82年調査	19.8	42.1	32.5	5.5
	中3の頃	01年調査	16.8	37.1	33.2	13.0
		82年調査	14.3	41.2	35.5	8.7
英語	中1の頃	01年調査	33.5	27.8	23.8	14.8
		82年調査	27.8	32.2	28.0	11.8
	中3の頃	01年調査	15.9	28.7	33.4	22.0
		82年調査	10.5	31.3	39.3	18.6

表4 中3の英数がわかる × 学校種別

		(%)							
		全体	農林	工業	商業	水産	家政	看護	総合
数 学	16.8	6.3	24.0	15.5	7.2	13.7	30.7	20.6	
英 語	15.9	6.6	24.6	15.5	5.8	10.1	25.9	20.0	

「ほとんどわかっていた」割合

2) 入学したい学校か

「入学したかった学校なのか」についての結果を図2(表5)に示した。専門高校へ入学したかった割合は43.9%で、普通高校の33.2%を10.7%も上回っている。学校種別では、水産(15.9%)や農林(27.9%)のよう

に、入学期待がそれほど高くない学校もみられる。その反面、看護(60.3%)や家政(59.6%)のように「ぜひ入りたかった」が6割に達する学校も見受けられる。

もちろん、今回の調査は、専門高校の中でも、伝統もあり、優れた実績を重ねている学校に協力を求めた。したがって、これから安

図2 入学したい学校だったか × 学校種別

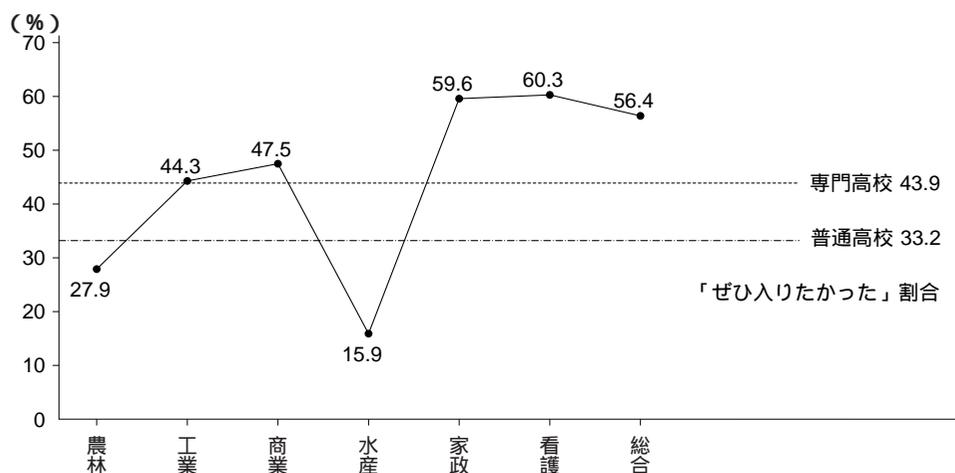


表5 入学したい学校だったか × 学校種別

	(%)				
	ぜひ入りたかった	どちらかという入りたかった	どちらともいえない	あまり入りたくなかった	入りたくなかった
専門	43.9	27.1	20.7	5.2	3.1
普通	33.2	29.0	28.4	7.0	2.5
農林	27.9	29.5	29.5	7.5	5.5
工業	44.3	32.0	18.3	3.4	1.9
商業	47.5	28.1	19.1	3.4	1.9
水産	15.9	25.4	36.3	14.6	7.8
家政	59.6	22.9	12.6	3.1	1.8
看護	60.3	25.1	9.6	2.3	2.7
総合	56.4	23.3	16.1	2.9	1.3

易な一般化を避ける必要があるが、全体として、専門高校の魅力が増し、入学したい学校が多く存在することを暗示している。

高校入学にあたって、生徒たちは何を大事

に考えたのか。表6によれば、生徒たちは、まず、「専門的な知識や技術が身につけられる」と同時に、「将来自分のやりたい仕事に役立つ」ことを入学動機にしている。さらに、「就職に

表6 入学にあたって重視したこと

(%)

	とても重視した	かなり重視した	あまり重視しなかった	ぜんぜん重視しなかった
専門的な知識や技術が身につけられる	48.6	33.5	13.9	4.0
将来自分のやりたい仕事に役立つ	39.0	30.0	23.3	7.6
就職に有利	29.8	28.9	31.2	10.1
自分の適性にふさわしい	25.4	38.1	29.7	6.7
自分の学力に見合っている	22.6	38.5	32.1	6.8
個性的な仕事につける	19.2	30.3	39.0	11.5
学校や学科の施設、設備が整っている	16.2	30.0	37.5	16.4
親のすすめ	10.0	22.6	36.7	30.8
大学・短大の推薦による進学に有利	5.9	10.6	45.1	38.4
中学の先生のすすめ	4.9	13.4	37.8	43.8

有利」が、進学理由の3位である。専門高校は専門性を大事に考えるから、こうした傾向は学校の狙いにかなうものであろう。

そして、表7の学校種別の集計によれば、

看護や家政はそうした専門性を意識して入学している生徒が多い。それに対し、水産や農林の入学者は入学にあたって専門性をあまり考慮していないようにみえる。

表7 入学にあたって重視したこと × 学校種別

(%)

	全体	農林	工業	商業	水産	家政	看護	総合
専門的な知識や技術が身につけられる	48.6	42.2	41.1	58.8	⑦32.2	②61.9	①68.0	47.1
将来自分のやりたい仕事に役立つ	39.0	32.6	30.5	38.7	⑦22.7	②50.7	①78.5	39.1
就職に有利	29.8	17.3	33.8	①61.5	24.4	19.4	②46.6	⑦7.8
自分の適性にふさわしい	25.4	21.7	20.7	24.0	⑦12.6	①40.3	23.7	②36.8
自分の学力に見合っている	22.6	24.0	20.3	②28.3	22.8	①34.5	17.0	⑦15.0
個性的な仕事につける	19.2	16.7	19.6	⑦15.0	17.4	①28.5	②25.8	18.1
学校や学科の施設、設備が整っている	16.2	11.0	9.5	②23.1	9.5	13.3	19.2	①25.6
親のすすめ	10.0	9.1	⑦6.2	①15.3	7.1	11.7	②14.2	8.7
大学・短大の推薦による進学に有利	5.9	5.2	5.4	①12.1	3.1	②8.6	5.5	⑦2.0
中学の先生のすすめ	4.9	②7.6	3.2	5.6	4.7	①8.6	4.1	⑦2.5

「とても重視した」割合
①、②、⑦は学校種別内の順位

2 学校生活の状況

これまでふれてきたように、生徒たちは、専門性を望んで、入学したくて専門高校へ入学している。それでは現在、どういう高校生活を送っているのか。普通高校と対比させて学校生活への評価を求めると、図3(表8)の通りとなる。

図から明らかなように、平均してみると、

専門高校と普通高校との間にかかなりの開きが見られる。

普通高校の方が高い=①全体にのびのび
②文化祭が盛ん

専門高校の方が高い=①生活指導に熱心
②部活動が盛ん
③決まりがきびしい

図3 どんな学校が 普通高校との比較

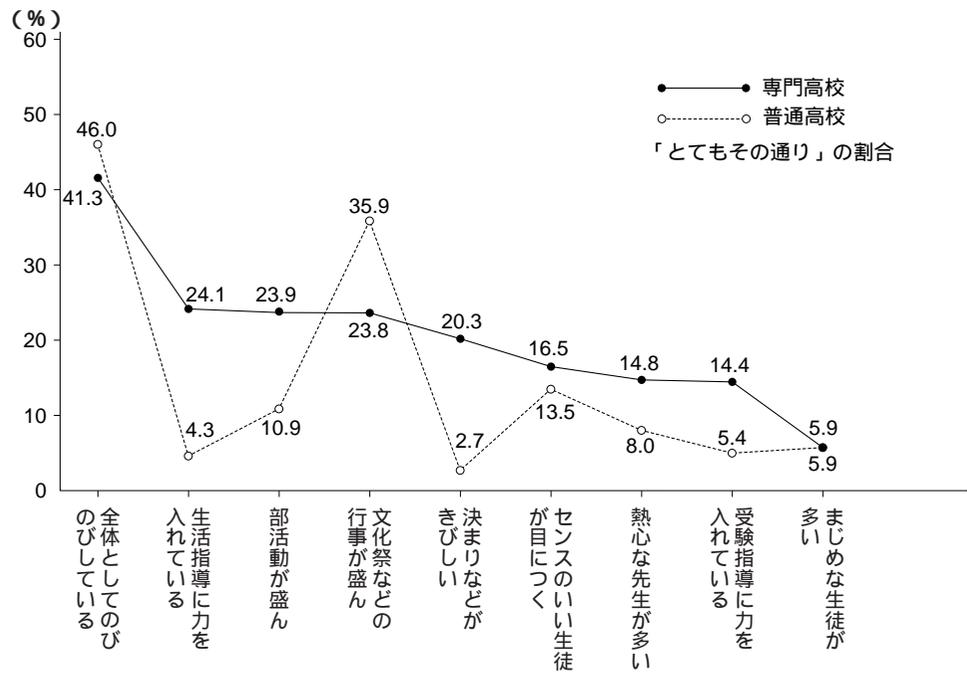


表8 どんな学校が 普通高校との比較

(%)

		とても その通り	やや その通り	あまり そうではない	まったく そうではない
全体としてのびのびしている	専門	41.3	36.6	16.2	6.0
	普通	46.0	41.5	10.0	2.4
生活指導に力を入れている	専門	24.1	30.4	32.2	13.3
	普通	4.3	25.4	51.9	18.4
部活動が盛ん	専門	23.9	30.7	31.4	13.9
	普通	10.9	40.1	39.0	10.0
文化祭などの行事が盛ん	専門	23.8	40.2	28.6	7.5
	普通	35.9	32.7	25.0	6.5
決まりなどがきびしい	専門	20.3	19.0	30.7	30.0
	普通	2.7	8.3	43.3	45.7
センスのいい生徒が目につく	専門	16.5	41.4	34.9	7.1
	普通	13.5	47.7	31.7	7.1
熱心な先生が多い	専門	14.8	43.1	32.4	9.7
	普通	8.0	37.9	41.4	12.7
受験指導に力を入れている	専門	14.4	39.3	37.9	8.3
	普通	5.4	37.4	45.8	11.4
まじめな生徒が多い	専門	5.9	33.1	50.7	10.3
	普通	5.9	31.5	51.3	11.3
就職指導に熱心	専門	28.5	42.5	25.4	3.6
専門科目が充実している	専門	57.7	33.1	8.0	1.3

は専門高校のみ。 は目につく数値

しかし図4が示すように、専門高校は農林、家政、総合の3校をとりだしても、のびのびとして専門科目の充実した総合、生活指導に熱心で決まりのきびしい農林、文化祭などの行事が盛んなセンスのいい生徒が多い家政のように、学校種別による開きがみられる。一口に、専門高校といえないくらい、学校による開き大きいのが専門高校なのであろう(表9)。

生徒たちによれば、学校での暮らしの中では、表10のように、「専門科目の実習」や「文化祭や体育祭」だという。

学校内でのほりあいを82年調査の結果と比較すると、図5の通りになる。82年調査と比べ、「文化祭や体育祭のとき」のほりあいはそれほど変わらないが、「専門科目の実習をしてい

るとき」は82年調査の45.2%から73.3%へ増加している。また「専門科目の授業を受けているとき」のほりあいは26.3%から53.7%へ倍増している。

専門高校の入学にあたって、専門性を期待してという声が大きかったことはすでにふれたが、図5によれば、この20年の間に専門科目の実習や授業のほりあいが大幅に増加している。そうした意味では、各高校が専門高校としての独自性を高め、生徒に充実感を与えようとしてきた努力が実を結んだのを感じる。

学校種別にみると、表11から明らかなように、家政や看護などで、専門科目に対する評価が高まっている。それに対し、農林や商業の評価はあまり高くはない。

図4 どんな学校か × 学校種別

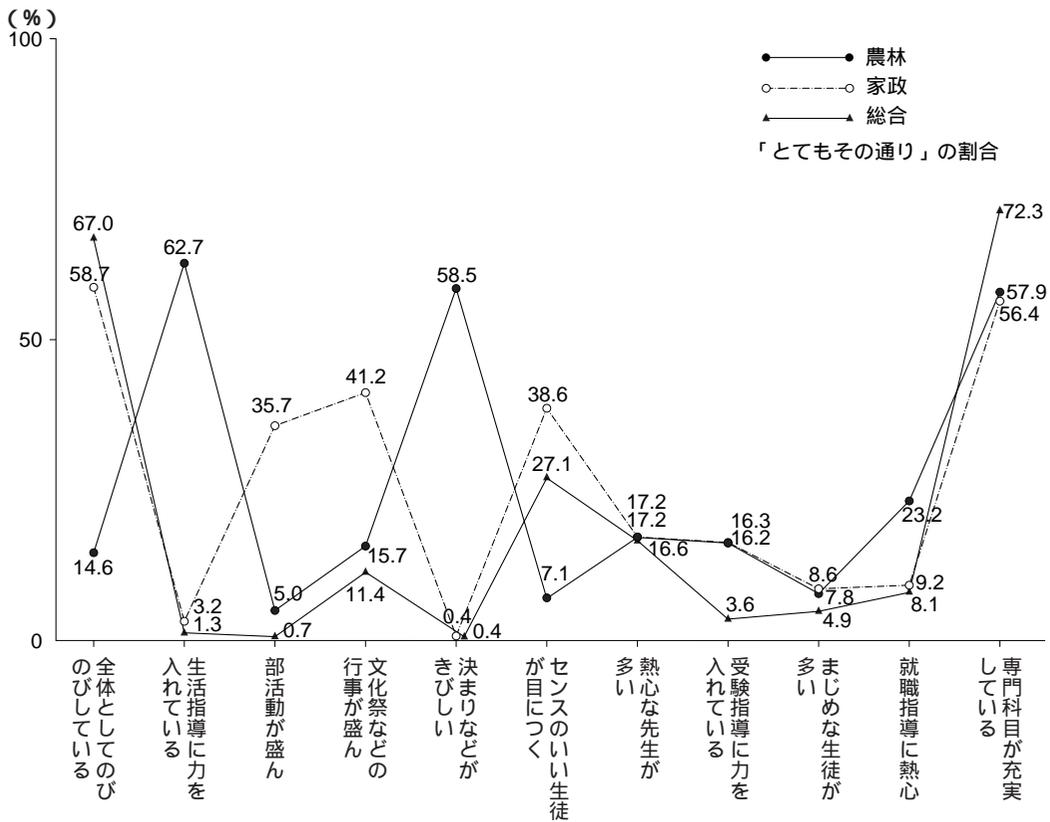


表9 どんな学校か × 学校種別

	(%)							
	全体	農林	工業	商業	水産	家政	看護	総合
全体としてのびのびしている	41.3	⑦14.6	32.5	②62.6	17.6	58.7	27.9	①67.0
生活指導に力を入れている	24.1	①62.7	26.9	3.2	②38.8	3.2	37.9	⑦ 1.3
部活動が盛ん	23.9	5.0	①74.6	9.9	21.1	②35.7	15.1	⑦ 0.7
文化祭などの行事が盛ん	23.8	15.7	29.2	②36.1	⑦10.9	①41.2	28.0	11.4
決まりなどがきびしい	20.3	①58.5	14.8	0.7	②41.5	0.4	34.7	0.4
センスのいい生徒が目につく	16.5	7.1	12.8	16.5	⑦ 5.1	①38.6	12.3	②27.1
熱心な先生が多い	14.8	②17.2	⑦10.4	10.7	12.6	②17.2	①24.7	16.6
受験指導に力を入れている	14.4	16.2	11.9	14.9	9.9	②16.3	①42.2	⑦ 3.6
まじめな生徒が多い	5.9	7.8	3.4	2.9	⑦ 2.7	② 8.6	①16.4	4.9
就職指導に熱心	28.5	23.2	②40.6	①59.0	24.8	9.2	19.0	⑦ 8.1
専門科目が充実している	57.7	57.9	51.2	51.2	⑦46.4	56.4	②69.7	①72.3

「とてもその通り」の割合
①、②、⑦は学校種別内の順位

表10 学校内でのほりあい 82年調査との比較

	(%)					
	とても感じる	まあ感じる	小計	(82年)	あまり感じない	ぜんぜん感じない
専門科目の実習をしているとき	33.8	39.5	73.3	45.2	18.9	7.8
文化祭や体育祭のとき	34.5	34.5	69.0	67.9	20.3	10.7
休み時間や昼休みのとき	31.7	35.4	67.1	71.3	24.0	8.9
音楽・美術・体育の授業を受けているとき	20.1	37.1	57.2	49.3	28.9	13.9
専門科目の授業(実習を除く)を受けているとき	14.8	38.9	53.7	26.3	35.2	11.0
クラブや部活動をしているとき	23.9	25.8	49.7	53.6	23.5	26.7
数学や英語の授業を受けているとき	3.8	20.9	24.7	17.7	42.7	32.7

(82年)は82年調査の「とても」+「まあ」感じる割合

図5 学校内でのほりあい 82年調査との比較

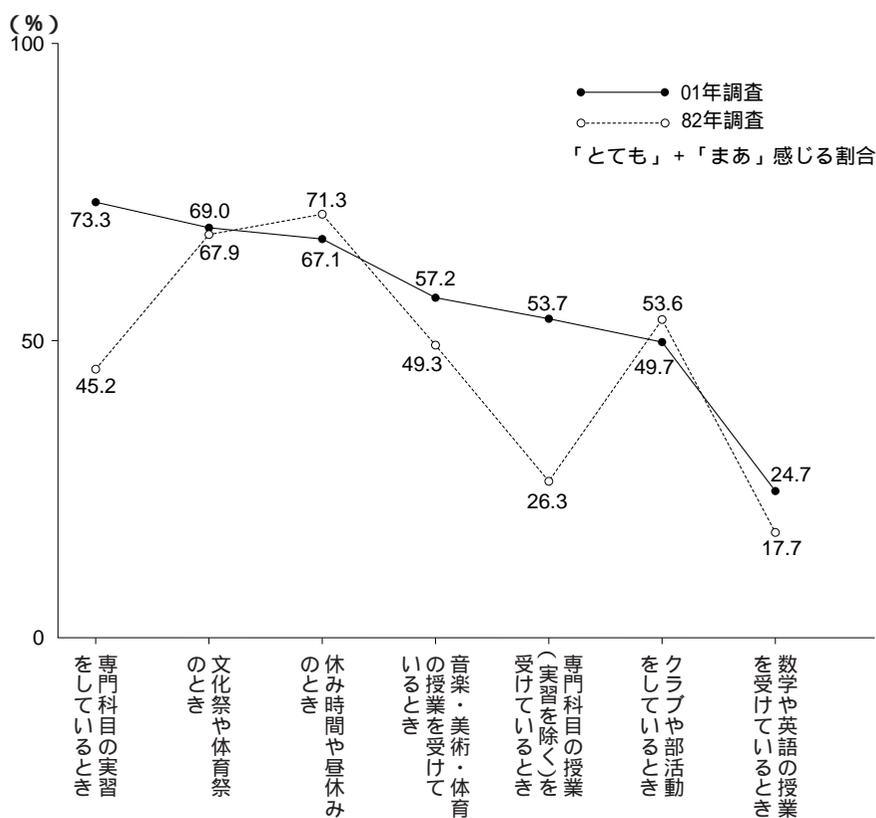


表11 学校内でのほりあい × 学校種別

	(%)							
	全体	農林	工業	商業	水産	家政	看護	総合
専門科目の実習をしているとき	73.3	64.1	72.3	63.7	59.0	①92.3	②87.5	84.2
文化祭や体育祭のとき	69.0	60.8	②77.3	①80.7	41.5	73.8	71.2	71.4
休み時間や昼休みのとき	67.1	①72.4	68.7	②72.3	57.7	68.0	59.3	65.6
音楽・美術・体育の授業を受けているとき	57.2	46.9	①67.6	58.1	52.2	②64.2	57.6	55.6
専門科目の授業(実習を除く)を受けているとき	53.7	38.6	47.1	44.9	43.2	①72.2	②70.7	62.7
クラブや部活動をしているとき	49.7	53.3	②54.8	44.0	50.0	①59.9	54.2	48.5
数学や英語の授業を受けているとき	24.7	②25.2	24.2	24.6	①27.1	19.8	20.6	22.6

「とても」+「まあ」感じる割合
①、②は学校種別内の順位

なお、表12に授業の理解度を示した。82年調査の結果と対比すると、

	01年	82年	01年 - 82年
数学	46.9%	51.0%	- 4.1%
英語	39.9%	38.1%	1.8%
専門科目	63.5%	57.3%	6.2%

「ほとんど + 半分以上わかっている」割合

となる。英語や数学の理解はあまり変わらないが、専門科目が「ほとんど + 半分以上わかっている」が、20年の間に6.2%高まっている。こうした面でも、専門高校が専門科目を重視してきたのがわかる。

なお、学校種別では、看護や家政、総合は、専門科目の理解が高いのが目につく(表13)。

表12 授業の理解度 82年調査との比較

	(%)					
	ほとんどわかっている	半分以上わかっている	小計	(82年)	あまりわからない	ぜんぜんわからない
数学	11.9	35.0	46.9	51.0	34.2	18.9
英語	8.6	31.3	39.9	38.1	39.9	20.2
専門科目	11.8	51.7	63.5	57.3	29.5	7.0

(82年)は82年調査の「ほとんど」+「半分以上」わかっている割合

表13 授業の理解度 × 学校種別

	(%)							
	全体	農林	工業	商業	水産	家政	看護	総合
数学	46.9	46.9	50.3	47.1	57.3	45.0	50.0	35.3
英語	39.9	43.7	43.0	47.1	36.2	38.4	39.6	29.7
専門科目	63.5	54.4	57.0	56.2	57.3	71.6	74.3	75.4

「ほとんど」+「半分以上」わかっている割合

3 学校での居心地

インターンシップについてのデータは表14に詳しい。インターンシップを経験して「楽しかった」が、「とても」の28.9%に「かなり」の44.3%を含めると、73.2%に達する。また、ボランティアの経験は表15の通りで、高校生になってからは「1度もない」割合がかなり多い。

アルバイトについては表16のように、「今までしたことがない」が44.0%で、「ふだんからいつもやっている」は22.6%である。学校種別にみると、さすがに、商業は40.1%が

「ふだんからいつもやっている」ようだが、看護では0.9%である。アルバイトの面でも、専門学校は専門性によって、各学校の状況が異なっているようにみえる。

それでは、学校にどういう気持ちで通っているのか。表17や表18が示すように、「学校を休むこと」や「学校に遅刻すること」は、「よく」と「わりと」を含めて、1割前後にすぎない。「さぼりたい」という気持ちも35.6%程度である。表19の学校種別の結果でも、学校へ通うのを嫌がる傾向は少ない。

表14 インターンシップ × 学校種別

	経験した	経験しての楽しさ			これからの楽しみ		
		とても楽しかった	かなり楽しかった	小計	とても楽しみ	かなり楽しみ	小計
		(%)					
全体	35.5	28.9	44.3	73.2	14.3	33.4	47.7
農林	38.9	36.7	38.7	75.4	11.1	35.6	46.7
工業	15.0	15.1	53.4	68.5	13.2	37.2	50.4
商業	19.3	23.5	39.5	63.0	13.2	34.8	48.0
水産	12.8	32.5	30.0	62.5	10.4	17.6	28.0
家政	10.5	37.5	50.0	87.5	15.1	38.2	53.3
看護	40.0	34.9	40.7	75.6	34.9	37.3	72.2
総合	93.5	27.4	47.4	74.8	6.9	41.4	48.3

表15 ボランティア活動 × 性

	小・中学校の頃				高校生になってから			
	1度もない	1～2回	3～5回	数え切れないくらい	1度もない	1～2回	3～5回	数え切れないくらい
	(%)							
全体	25.0	39.2	23.8	12.0	73.4	17.6	5.6	3.4
男子	26.1	37.3	24.2	12.4	77.3	14.4	3.9	4.3
女子	24.1	40.7	23.6	11.7	70.4	20.1	6.9	2.6

表16 アルバイト × 学校種別

(%)

	専門	普通	農林	工業	商業	水産	家政	看護	総合
ふだんからいつもやっている	22.6	22.9	28.0	11.0	40.1	12.0	33.5	0.9	25.2
土・日や休日だけやっている	4.5	4.6	6.9	0.7	4.0	3.9	5.9	0.9	8.3
長期休暇のときだけやっている	6.2	3.2	4.2	5.3	4.0	11.2	2.3	16.6	5.2
今はやっていない	22.7	22.7	22.2	20.8	17.8	32.6	24.0	21.8	23.4
今までしたことがない	44.0	46.6	38.6	62.3	34.2	40.3	34.4	59.7	38.0

表17 総学の気分

(%)

	よくある	わりとある	小計	たまにある	あまりない	ぜんぜんない
学校を休むこと	4.3	3.4	7.7	13.6	26.1	52.7
学校に遅刻すること	7.0	5.8	12.8	13.4	18.0	55.7
学校をさぼりたいと思うこと	23.7	11.9	35.6	29.1	18.4	16.9

表18 総学の気分 × 属性

(%)

	全体	性別		学年別		
		男子	女子	1年	2年	3年
学校を休むこと	7.7	7.3	8.0	3.7	9.8	10.1
学校に遅刻すること	12.8	11.4	13.9	6.5	15.3	17.5
学校をさぼりたいと思うこと	35.6	34.8	36.4	30.3	37.9	39.5

「よく」+「わりと」ある割合

表19 総学の気分 × 学校種別

(%)

	全体	農林	工業	商業	水産	家政	看護	総合
学校を休むこと	7.7	9.6	6.3	6.1	9.5	14.9	4.1	5.9
学校に遅刻すること	12.8	12.7	9.1	14.6	8.1	29.1	2.8	14.3
学校をさぼりたいと思うこと	35.6	36.2	33.4	34.0	38.0	39.5	38.9	34.3

「よく」+「わりと」ある割合

図6(表20)は、中学時代と比べ高校での生活がどうなったのかを82年調査と対比させた結果である。

	01年	82年	01年 - 82年
あまり校則にしば			
られなくなった	59.8%	28.7%	31.1%
自分の興味・関心に			
合った勉強が増えた	65.6%	29.8%	35.8%
気の合う仲間が			
多くなった	62.1%	47.7%	14.4%
全体として楽しく			
なった	54.4%	31.5%	22.9%
成績のことで先生から口			
うるさく言われなくなった	43.6%	34.6%	9.0%

授業が楽しくなった 40.4% 19.4% 21.0%
 先生たちはいいにわ
 かりやすく教えてくれる 33.3% 16.0% 17.3%
 「とても + かなり」そう思う割合

このように、80年代と比べ01年調査では、「校則が緩やかになり、興味・関心に合った勉強が増え、気の合う仲間が多くなり、学校が全体に楽しくなった」という反応が増加している。

なお、学校種別では表21に詳しいが、家政や看護、総合は興味・関心に合った勉強が増えたなどの評価が高い。それに対し、農林や水産などは学校の魅力に乏しいという結果が得られている。

図6 中学時代と比べ 82年調査との比較

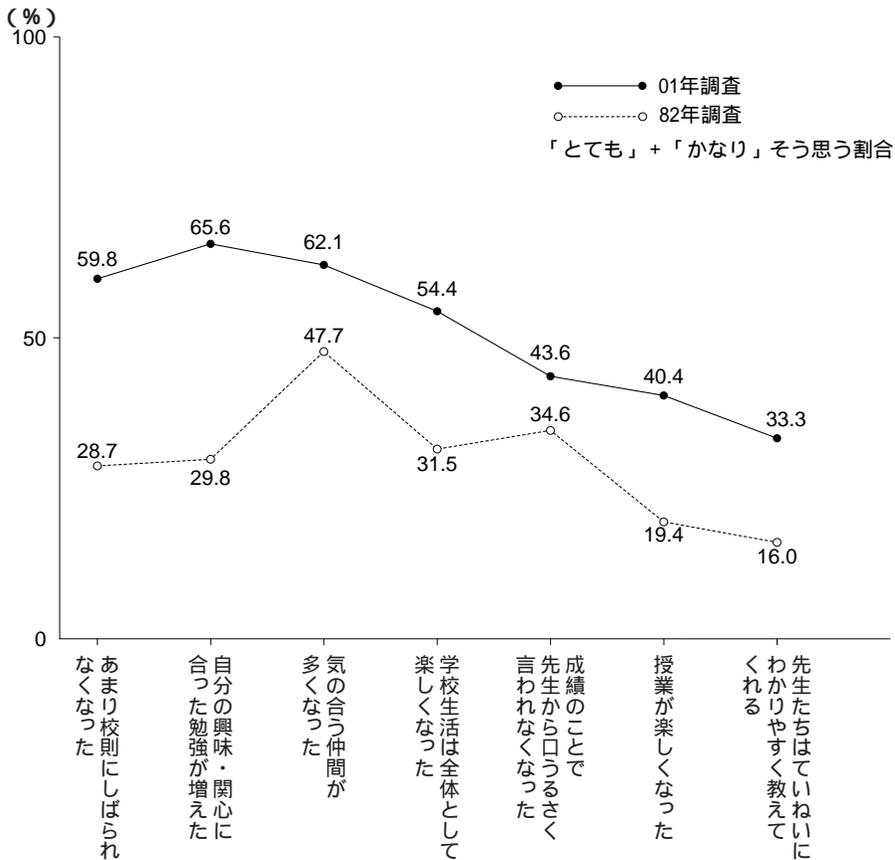


表20 中学時代と比べ 82年調査との比較

	(%)					
	とても そう思う	かなり そう思う	小計	(82年)	あまり そう思わない	ぜんぜん そう思わない
あまり校則にしばられなくなった	33.4	26.4	59.8	28.7	23.4	16.8
自分の興味・関心に合った勉強が増えた	28.3	37.3	65.6	29.8	28.2	6.3
気の合う仲間が多くなった	22.4	39.7	62.1	47.7	31.3	6.6
学校生活は全体として楽しくなった	21.8	32.6	54.4	31.5	35.2	10.4
成績のことで先生から口うるさく言われなくなった	14.0	29.6	43.6	34.6	45.6	10.8
授業が楽しくなった	13.2	27.2	40.4	19.4	41.6	18.0
先生たちはていねいにわかりやすく教えてくれる	7.5	25.8	33.3	16.0	49.4	17.3

(82年)は82年の「とても」+「かなり」そう思う割合

表21 中学時代と比べ × 学校種別

	(%)							
	全体	農林	工業	商業	水産	家政	看護	総合
あまり校則にしばられなくなった	59.8	⑦19.8	54.4	90.2	31.9	①92.7	21.8	②91.3
自分の興味・関心に合った勉強が増えた	65.6	62.1	55.0	61.5	⑦46.0	①85.9	70.0	②83.9
気の合う仲間が多くなった	62.1	61.0	57.4	②68.1	58.7	①70.9	⑦47.5	67.2
学校生活は全体として楽しくなった	54.4	51.1	47.7	64.9	⑦37.1	①69.1	40.6	②65.2
成績のことで先生から口うるさく言われなくなった	43.6	38.0	38.8	②55.9	①56.9	54.2	⑦22.0	45.2
授業が楽しくなった	40.4	40.3	⑦27.2	40.1	31.1	①61.2	35.9	②52.5
先生たちはていねいにわかりやすく教えてくれる	33.3	32.7	⑦23.6	29.7	31.8	①44.2	39.2	②40.1

「とても」+「かなり」そう思う割合
①、②、⑦は学校種別内の順位

第3章 IIIII

専門高校への評価

1 高校への充足感

このように、専門高校は専門性を生かして生徒の心をつかんでいるようにみえる。表22のように、「この学校に入ってよかったと思う」のは「よくある」の35.3%に「たまに」の46.1%を含めると、81.4%に達する。

そして、図7から明らかなように、82年調査と比較すると、「クラスの仲間に親しみを感じる」はそれほど変わらないが、「この学校に入ってよかったと思う」や「自分の興味・関心に合った勉強ができる」「この学校の生徒であることは誇りであると思う」などの面で、よくなったという評価が目につく。

表23に学校生活の気分についての学校種別の集計結果を示した。この表の中には、「この学校に入ってよかったと思う」のような積

極的な項目と「校則にしばられていると感じる」のような消極的な項目とが含まれているので、結果の読み取りが難しい。しかし、他の学校種別のクロス結果と同じように、評価がよいのが総合、家政、看護の3校、評価が低いのが農林と水産の2校、中間が商業と工業の2校という傾向は共通している。

あらためて、表24に学校についての生徒の気持ちをまとめた。「他の学校にない独自の校風がある」が「とてもあてはまる」と「わりと」で70.6%、「将来の目標を持っている生徒が多い」も61.3%を占める。なお、表25に学校種別の結果を示したが、これまでとほぼ同じ結果が得られている。

表22 学校生活の気分 82年調査との比較

	よくある	たまにある	小計	(82年)	ほとんどない	ぜんぜんない
クラスの仲間に親しみを感じる	36.1	47.4	83.5	86.7	12.2	4.3
この学校に入ってよかったと思う	35.3	46.1	81.4	73.9	12.7	5.8
落第をしない程度の成績がとればよいと思う	33.5	38.6	72.1	78.0	16.9	11.0
自分の興味・関心に合った勉強ができる	21.4	41.4	62.8	42.7	28.0	9.2
この学校の生徒であることは誇りであると思う	21.3	37.3	58.6	44.7	28.8	12.6
校則にしばられていると感じる	17.2	18.6	35.8	61.4	26.6	37.6
HR・生徒会・部でみんなの先に立って活動する	6.1	18.9	25.0	21.4	43.6	31.4
よい成績をとって友だちに優越感を感じる	6.4	18.3	24.7	28.3	42.3	32.9
先生にほめられる	2.8	21.3	24.1	24.6	48.5	27.4
先生に無視(シカト)されていると感じる	6.3	15.4	21.7	34.0	40.4	37.8
早く社会に出て働きたいと思う	29.0	29.2	58.2	62.7	24.3	17.5
学校をやめてしまいたいと思う	10.5	19.9	30.4	40.3	23.6	46.1
普通科へ転科したい	11.1	17.9	29.0	—	25.5	45.6
専門高校の他の科へ行きたい	7.7	14.0	21.7	—	30.3	48.0

は82年調査で実施せず。(82年)は82年調査の「よく」+「たまに」ある割合

図7 学校生活の気分 82年調査との比較

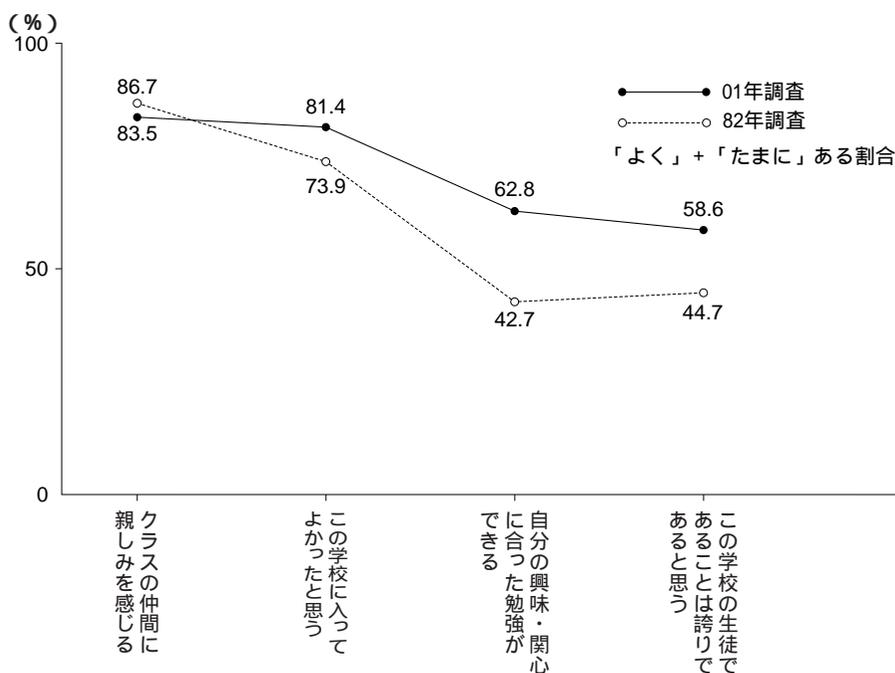


表23 学校生活の気分 × 学校種別

	(%)							
	全体	農林	工業	商業	水産	家政	看護	総合
クラスの仲間に親しみを感じる	83.5	81.2	83.1	①88.3	⑦80.0	②84.3	82.9	83.5
この学校に入ってよかったと思う	81.4	72.2	79.7	88.3	⑦64.7	①95.1	77.8	②91.2
落第をしない程度の成績がとれればよいと思う	72.1	①79.4	68.5	73.6	②75.2	73.4	⑦63.9	69.1
自分の興味・関心に合った勉強ができる	62.8	53.2	54.9	59.5	⑦45.0	①82.3	71.3	②80.2
この学校の生徒であることは誇りであると思う	58.6	⑦40.3	58.1	②67.9	41.0	①75.2	66.2	65.9
校則にしばられていると感じる	35.8	①76.8	41.5	10.0	61.0	4.4	②64.4	⑦ 3.6
HR・生徒会・部でみんなの先に立って活動する	25.0	21.4	⑦19.0	25.5	②27.1	21.7	①36.3	24.0
よい成績をとって友だちに優越感を感じる	24.7	24.8	②26.2	25.6	①28.8	22.4	24.1	⑦21.5
先生にほめられる	24.1	23.5	24.3	22.7	25.1	①28.9	②25.9	⑦21.5
先生に無視(シカト)されていると感じる	21.7	①29.4	21.0	⑦18.2	23.4	18.6	②24.2	18.3
早く社会に出て働きたいと思う	58.2	59.3	63.8	56.7	②69.5	47.9	①79.5	⑦41.2
学校をやめてしまいたいと思う	30.4	37.2	30.0	25.3	②39.7	26.6	①41.4	⑦19.7
普通科へ転科したい	29.0	25.1	32.2	21.7	35.0	⑦20.3	②61.9	①79.8
専門高校の他の科へ行きたい	21.7	①28.6	26.6	18.5	②27.8	16.7	15.5	⑦15.0

「よく」+「たまに」ある割合
①、②、⑦は学校種別内の順位

表24 学校への評価

	(%)				
	とてもあてはまる	わりとあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
他の学校にない独自の校風がある	31.5	39.1	24.2	3.5	1.7
将来の目標を持っている生徒が多い	25.7	35.6	29.4	7.3	2.1
普通高校より学校生活が忙しい	16.9	28.1	39.2	11.0	4.7
普通高校より生徒指導はきびしい	13.7	13.9	31.0	23.5	17.9
普通高校より生徒と先生のふれあいがありそう	13.0	33.5	39.9	9.4	4.1
学科ごとのまとまりは強い	12.9	24.3	46.3	12.6	4.0
先輩後輩のタテの関係が太い	12.2	15.2	42.0	20.9	9.7

表25 学校への評価 × 学校種別

	(%)							
	全体	農林	工業	商業	水産	家政	看護	総合
他の学校にない独自の校風がある	31.5	24.8	25.7	27.6	⑦20.9	②42.3	①44.2	42.1
将来の目標を持っている生徒が多い	25.7	20.3	8.9	22.3	⑦ 8.2	②39.8	①69.9	33.8
普通高校より学校生活が忙しい	16.9	13.0	⑦ 8.2	12.0	8.9	②33.5	①58.8	10.7
普通高校より生徒指導はきびしい	13.7	①36.8	10.4	0.7	25.9	1.4	②29.2	⑦ 0.0
普通高校より生徒と先生のふれあいがありそう	13.0	15.4	10.6	9.5	⑦ 6.4	12.6	①19.0	②18.3
学科ごとのまとまりは強い	12.9	15.1	①26.4	7.3	7.8	7.7	②15.9	⑦ 6.5
先輩後輩のタテの関係が太い	12.2	4.7	①37.3	5.1	②14.2	3.2	13.0	⑦ 1.8

「とてもあてはまる」割合
①、②、⑦は学校種別内の順位

高校に対する満足感を尋ねた結果を表26に示した。全体としての満足感は「とても満足」の9.9%に「かなり」の24.8%を含めて、34.7%にとどまる。専門高校として、努力を重ねてきた。しかし普通高校と比較すると、図8のように、専門高校の生徒の評価は普通高校より1割程度下回っている。専門高校はがんばってきたが、普通高校と比較すると、それでも、学校全体としては、充足感に欠けるのであろう。そうした意味では、専門高校として

のこれからの努力目標を示す結果である。

表27に表26の属性別の結果を示した。また、表28は学校種別の傾向である。

専門高校の生徒は高校卒の資格を求めて入学する気持ちを持っていよう。表29によれば、「なんとしても必要」の45.5%と「かなり」の29.4%を含めて、74.9%の生徒が高校卒の資格を求めている。そして、属性別にみても、どの高校でも4割以上が高校卒の資格を「なんとしても必要」と思っている。

表26 高校への満足感 普通高校との比較

		(%)					
		とても満足	かなり満足	小計	やや満足	かなり不満	とても不満
高校の雰囲気	専門	15.9	21.3	37.2	47.8	9.4	5.6
	普通	21.6	28.2	49.8	38.3	7.6	4.2
先生方の教え方	専門	5.0	12.4	17.4	53.8	18.8	10.0
	普通	3.4	15.2	18.6	47.8	22.4	11.1
友だち関係	専門	23.5	33.2	56.7	36.2	4.8	2.3
	普通	30.9	34.3	65.2	29.3	3.4	2.1
部活動	専門	15.9	17.3	33.2	37.7	12.6	16.5
	普通	19.6	22.0	41.6	35.5	12.7	10.3
全体として	専門	9.9	24.8	34.7	49.8	10.5	5.0
	普通	13.4	32.8	46.2	41.2	8.4	4.2

図8 高校への満足感 普通高校との比較

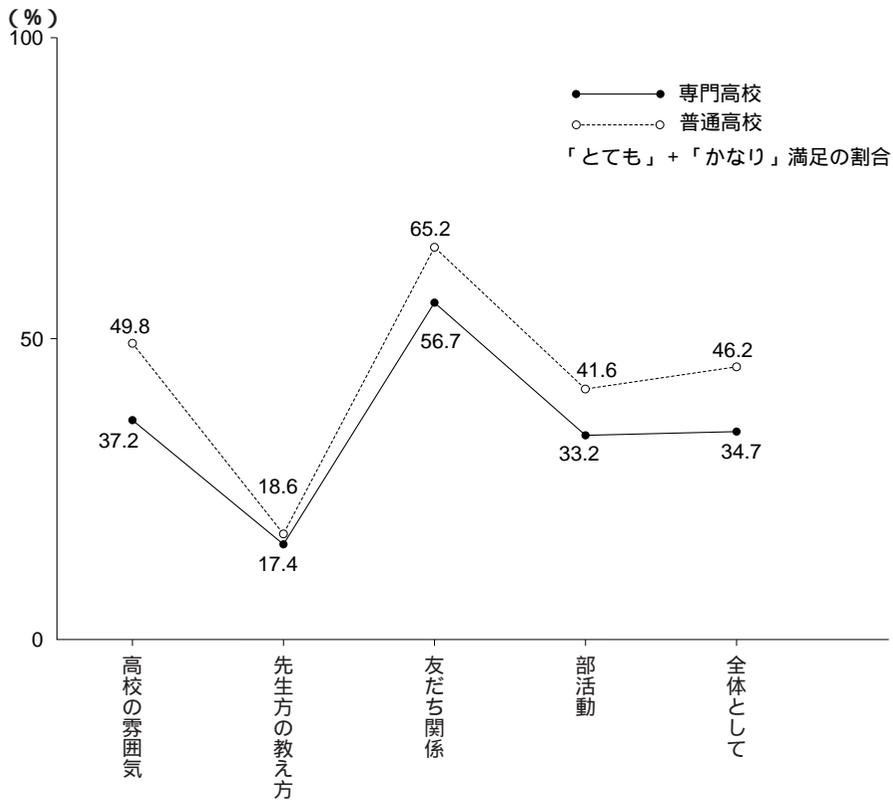


表27 高校への満足感 × 属性

	(%)					
	全 体	性 別		学 年 別		
		男 子	女 子	1 年	2 年	3 年
高校の雰囲気	37.2	30.2	42.6	42.7	31.5	36.8
先生方の教え方	17.4	18.4	16.4	22.4	13.6	15.3
友だち関係	56.7	55.9	57.4	59.8	54.0	56.1
部活動	33.2	34.0	32.5	38.8	29.7	30.3
全体として	34.7	30.0	38.4	40.3	28.4	34.7

「とても」 + 「かなり」 満足の割合

表28 高校への満足感 × 学校種別

(%)

	全体	農林	工業	商業	水産	家政	看護	総合
高校の雰囲気	37.2	20.1	27.7	47.9	⑦20.0	②52.5	33.8	①57.1
先生方の教え方	17.4	14.8	⑦12.7	15.8	16.6	18.6	②21.8	①23.2
友だち関係	56.7	55.5	54.7	①66.9	50.5	②60.1	⑦44.4	58.9
部活動	33.2	⑦25.3	32.5	35.8	②38.4	①49.5	34.2	27.3
全体として	34.7	⑦22.1	26.8	②43.3	22.4	①47.5	31.5	39.2

「とても」+「かなり」満足の割合
①、②、⑦は学校種別内の順位

表29 高校卒の資格は必要か × 属性

(%)

		なんとしても必要	かなり必要	やや必要	あまり必要でない	まったく必要でない
全体		45.5	29.4	19.2	4.2	1.6
性別	男子	47.7	27.4	18.5	4.3	2.1
	女子	43.8	31.0	19.8	4.2	1.2
学校種別	農林	40.2	33.6	20.7	3.9	1.6
	工業	48.2	27.9	19.0	3.7	1.3
	商業	45.9	28.6	19.2	4.9	1.5
	水産	45.9	29.8	17.1	5.1	2.1
	家政	47.7	26.4	20.9	4.1	0.9
	看護	50.2	28.6	14.1	4.2	2.8
	総合	43.2	30.0	21.3	4.0	1.6

2 個人的な心情

これまで、学校生活を中心として、専門高校生を追い求めてきた。ここでは、生徒たちの心のうちをいくつか紹介しておこう。正直なところ、進学に失敗した生徒が専門高校へ進む場合がある。それだけに、専門高校で学ぶ生徒の中には精神的に不安な生徒がいるのではないか。古典的な見方かもしれないが、そうした可能性を検討してみた。

表30によれば、「『子どもの頃はよかったなあ』と思う」や「自分の将来がどうなるのか不安だ」などについて、「とても思う」が3～4割に達する。表31の学校種別の集計結果でも、「『子どもの頃はよかったなあ』と思う」などの反応が、どの高校にも共通している。そうした意味では、精神的に安定性を欠く生徒が少なくないように見える。

表30 不安な傾向

	(%)			
	とても思う	わりと思う	あまり思わない	ぜんぜん思わない
「子どもの頃はよかったなあ」と思う	43.2	31.9	16.9	8.0
もう一度中学生に戻ってやり直したい	40.7	29.8	15.4	14.2
自分の将来がどうなるのか不安だ	33.4	40.3	19.9	6.4
もう一度小学生に戻ってやり直したい	29.6	22.2	27.1	21.1
今受けている授業や実習に興味・関心が持てない	10.9	24.7	46.9	17.5
今自分のやっていることは将来役に立ちそうもない	9.9	20.3	47.7	22.1

表31 不安な傾向 × 学校種別

	(%)							
	全体	農林	工業	商業	水産	家政	看護	総合
もう一度中学生に戻ってやり直したい	40.7	37.2	46.5	38.5	50.5	30.5	49.5	34.1
「子どもの頃はよかったなあ」と思う	43.2	47.5	46.3	44.6	38.5	34.1	49.5	39.3

「とても思う」割合

しかし、普通高校との比較を行うために、「疲れ傾向」をまとめると、図9（表32）の通りとなる。図が示すように、普通高校と専門高校との間に差がほとんど認められず、両群の差は2～3%レベルにとどまる。そうした意味では、この結果は、高校生が疲れているのであって、特に専門高校の生徒が疲れているとはいえないように思える。なお、表33に学校種別の集計結果を示した。

表34に、個人的な感情についての結果をま

とめたが、ここでも、普通高校と比較すると、ほとんど差がみられない。そして、「イライラしたり、ムカついたりすること」や「我を忘れてカッとなること」の項目では、むしろ普通高校の生徒の方が、不安定な数値が高い。したがって、少なくとも専門高校の生徒が特別不安な傾向をかかえているとはいえないように思われる。表35は、表34の結果を学校種別にまとめた結果である。

図9 疲れ傾向 普通高校との比較

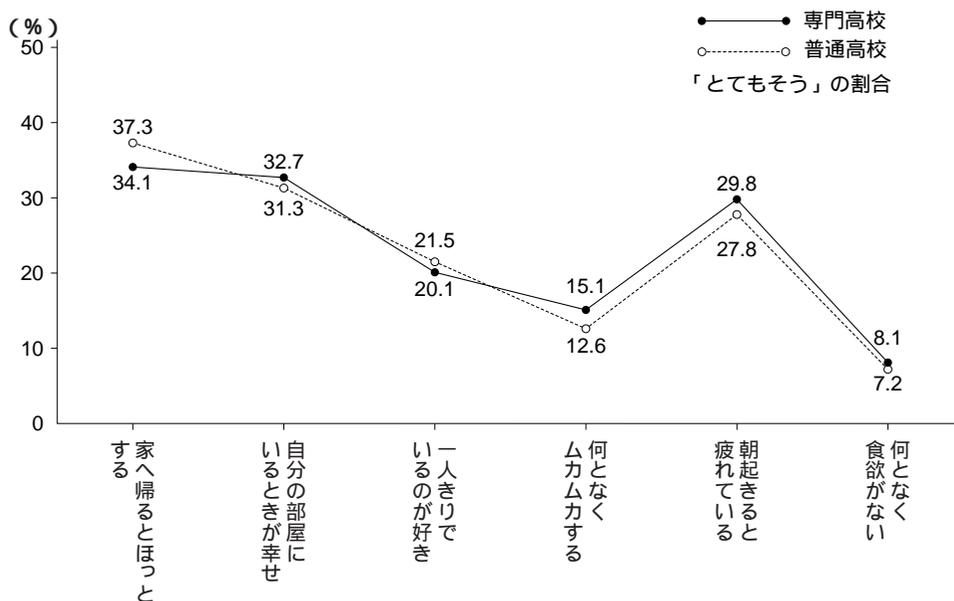


表32 疲れ傾向 普通高校との比較

		(%)				
		とても そう	かなり そう	やや そう	あまり そうでない	まったく そうでない
家へ帰るとほっとする	専門	34.1	22.3	28.9	10.8	3.9
	普通	37.3	24.3	26.6	8.6	3.2
自分の部屋にいるときが幸せ	専門	32.7	25.8	27.0	11.8	2.7
	普通	31.3	24.3	29.2	11.7	3.4
一人きりでいるのが好き	専門	20.1	16.7	33.1	23.7	6.4
	普通	21.5	18.1	30.0	24.2	6.2
何となくムカムカする	専門	15.1	14.8	28.3	31.8	10.0
	普通	12.6	14.2	29.6	31.3	12.3
朝起きると疲れている	専門	29.8	21.6	27.6	16.2	4.8
	普通	27.8	22.8	27.9	17.2	4.3
何となく食欲がない	専門	8.1	9.5	25.2	32.9	24.4
	普通	7.2	7.8	23.5	32.4	29.1

表33 疲れ傾向 × 学校種別

		(%)								
		専門	普通	農林	工業	商業	水産	家政	看護	総合
家へ帰るとほっとする		34.1	37.3	34.0	29.3	33.7	37.0	33.5	56.1	27.3
自分の部屋にいるときが 幸せ		32.7	31.3	36.4	31.9	33.3	32.2	29.0	39.7	28.6
一人きりでいるのが好き		20.1	21.5	22.8	14.8	23.2	19.4	21.2	24.8	18.1
何となくムカムカする		15.1	12.6	20.3	10.0	19.1	15.4	11.7	20.1	11.2
朝起きると疲れている		29.8	27.8	32.7	29.8	29.0	32.6	27.9	36.0	24.2
何となく食欲がない		8.1	7.2	10.0	4.2	12.4	9.6	5.4	8.9	6.5
6項目の平均		23.3	23.0	26.0	20.0	25.1	24.4	21.5	30.9	19.3

「とてもそう」の割合

表34 個人的な感情 普通高校との比較

(%)

		よくある	ときどきある	あまりない	まったくない
何かを決めるとき、迷ってしまうこと	専門	45.0	41.4	11.1	2.5
	普通	57.5	33.3	7.8	1.4
ものごとをフィーリング（感覚）で決めること	専門	30.7	49.9	17.9	1.6
	普通	33.2	55.4	10.3	1.1
イライラしたり、ムカついたりすること	専門	29.1	43.4	23.5	4.0
	普通	44.0	43.7	11.0	1.3
社会がだんだん悪くなっていくと感じること	専門	25.9	35.9	28.4	9.8
	普通	26.1	37.4	26.8	9.8
漠然とした不安を感じることに	専門	24.1	36.4	29.9	9.6
	普通	27.6	46.0	20.9	5.5
居場所がないように感じること	専門	17.1	35.5	36.8	10.6
	普通	18.5	40.4	32.3	8.7
心の温まる思いが少ないと感じること	専門	13.8	28.9	45.0	12.3
	普通	13.2	30.9	45.3	10.6
我を忘れてカッとなること	専門	12.9	25.0	43.3	18.8
	普通	17.3	28.4	39.4	14.9
プライドが傷つけられること	専門	10.2	30.5	49.2	10.1
	普通	13.1	39.5	40.6	6.8
宗教や占いなどに頼りたくなること	専門	8.0	16.1	29.4	46.5
	普通	7.8	20.3	27.1	44.8

表35 個人的な感情 × 学校種別

(%)

	専門	普通	農林	工業	商業	水産	家政	看護	総合
何かを決めるとき、迷ってしまうこと	45.0	57.5	45.1	44.8	45.7	31.1	49.3	61.2	43.0
ものごとをフィーリング(感覚)で決めること	30.7	33.2	28.0	31.4	26.9	24.5	39.2	32.7	34.1
イライラしたり、ムカついたりすること	29.1	44.0	33.8	26.0	32.7	21.9	32.7	37.1	23.8
社会がだんだん悪くなっていくと感じること	25.9	26.1	27.0	25.3	30.1	23.0	28.6	27.6	21.3
漠然とした不安を感じるこ と	24.1	27.6	26.8	20.3	24.0	13.7	29.1	39.7	22.2
居場所がないように感じる こと	17.1	18.5	20.4	11.6	18.9	9.0	21.2	31.8	14.1
心の温まる思いが少ないと 感じるこ と	13.8	13.2	15.7	11.6	16.3	10.0	13.1	24.3	9.9
我を忘れてカッとなること	12.9	17.3	15.4	11.1	15.8	13.8	13.9	15.0	8.1
プライドが傷つけられるこ と	10.2	13.1	8.7	8.1	12.6	10.0	10.8	19.6	6.7
宗教や占いなどに頼りたく なるこ と	8.0	7.8	10.2	5.5	10.2	6.7	7.7	12.6	5.2
10項目の平均	21.7	25.8	23.1	19.6	23.3	16.4	24.6	30.2	18.8

「よくある」割合

第4章 ||||

卒業後の見通し

1 就職への見通し

専門高校というと、就職というイメージがついてまわる。しかし、表36によれば、就職希望の割合は36.4%にとどまる。そして、学校種別に着目すると、就職希望率が高いのは

商業の57.0%で、以下工業45.8%、農林39.9%、水産37.1%である。それに対し低いのは、看護2.4%、総合11.7%、家政14.7%である。

表37によれば、82年調査の場合、就職希望

表36 卒業後の進路 × 属性

	(%)									
	全体	性 別		学 校 種 別						
		男子	女子	農林	工業	商業	水産	家政	看護	総合
就職	36.4	45.1	29.7	39.9	45.8	57.0	37.1	14.7	2.4	11.7
家業・家の手伝い	1.2	1.7	0.7	0.8	0.9	0.7	3.8	2.3	0.0	0.5
各種学校・専修学校	28.4	20.1	34.8	28.9	17.5	20.3	43.2	37.6	59.2	37.5
短期大学	5.2	1.7	8.0	5.5	3.2	3.9	0.3	14.2	11.4	4.1
4年制大学(私立)	7.2	7.3	7.1	3.7	5.8	5.4	1.7	5.5	1.4	20.3
4年制大学(国立)	5.2	8.8	2.4	2.6	12.5	1.5	1.7	0.9	2.4	9.0
その他	3.2	2.7	3.6	2.9	1.7	2.0	3.1	3.7	11.8	1.8
まだ決めていない	13.2	12.7	13.7	15.7	12.5	9.3	9.1	21.1	11.4	15.1

は目につく数値

率（就職・家業・家の手伝い）が69.3%であった。しかし、01年調査では就職希望率が37.6%で、進学希望率が46.0%に達する。20年の間に、専門高校は就職から進学へ性格を変え始めたのであろう。

そこで、就職希望者に仕事についての見通しを尋ねると、表38のように、「高校で身に

つけた知識や技術を生かせる仕事」を例にとると、「きつとつける」は21.7%で、「たぶん」を含めると69.3%となる。「きつと」というほどには自信はないが、なんとかなりそうという見通しなのであろう。そして、表39によれば、看護や家政は専門性がはっきりとしているためか、技術が役立つと思う割合が多い。

表37 卒業後の進路 82年調査との比較

(%)

	全 体		性 別				学 校 種 別			
			男 子		女 子		工 業		商 業	
	01年	82年	01年	82年	01年	82年	01年	82年	01年	82年
就職・家業・家の手伝い	37.6	69.3	46.8	63.9	30.4	75.5	46.7	66.5	57.7	73.3
各種学校・専修学校	28.4	10.6	20.1	10.0	34.8	11.3	17.5	10.3	20.3	10.4
短期大学	5.2	3.0	1.7	2.9	8.0	3.1	3.2	2.3	3.9	2.4
4年制大学(私立・国立)	12.4	4.7	16.1	7.8	9.5	1.2	18.3	6.1	6.9	3.9
その他・まだ決めていない	16.4	11.7	15.4	14.3	17.3	8.6	14.2	13.8	11.3	9.4

表38 仕事への見通し(就職希望者)

(%)

	きつとつける	たぶんつける	たぶんつけない	絶対つけない
高校で身につけた知識や技術を生かせる仕事	21.7	47.6	23.8	7.0
正社員としてやりがいのある仕事	21.5	50.5	24.3	3.7
自分の適性を生かせる仕事	21.4	53.4	23.4	1.8
自分の希望する給与や待遇と合う仕事	13.5	45.6	37.1	3.8

表39 仕事への見通し(就職希望者)×学校種別

(%)

	全体	農林	工業	商業	水産	家政	看護	総合
高校で身につけた知識や技術を生かせる仕事	21.7	⑦14.1	18.7	24.1	19.7	24.1	①54.3	②24.7
正社員としてやりがいのある仕事	21.5	20.5	21.5	19.8	⑦18.9	②25.0	①44.4	22.2
自分の適性を生かせる仕事	21.4	20.5	19.9	⑦17.8	20.5	①35.2	②34.8	25.0
自分の希望する給与や待遇と合う仕事	13.5	13.1	12.4	10.9	13.1	②26.4	①35.6	⑦5.5

「きつとつける」割合
①、②、⑦は学校種別内の順位

現在は不況が続いている。表40によると、「不況で仕事が見つげにくいと感じるか」について、「とても感じている」の35.4%に「かなり」の32.4%を含めると、67.8%とほぼ

3分の2が、不況の影響を心配している。

表41に就職後の見通しについての結果を示した。「一人前に仕事ができるようになるか不安だ」は「とてもそう思う」が36.8%、「職

表40 不況で仕事が見つげにくいと感じる(就職希望者)×属性

		(%)				
		とても感じている	かなり感じている	やや感じている	あまり感じていない	まったく感じていない
全 体		35.4	32.4	24.0	5.5	2.7
性 別	男 子	38.7	31.0	21.1	5.7	3.5
	女 子	32.0	33.9	27.1	5.3	1.7
学 年	1 年	35.2	30.4	26.1	5.9	2.4
	2 年	30.3	35.7	23.6	7.5	2.9
	3 年	40.5	31.4	22.2	3.2	2.7
学 校 種 別	農 林	39.8	33.5	22.7	1.7	2.3
	工 業	43.1	34.7	16.3	4.2	1.7
	商 業	31.0	32.6	26.0	9.3	1.2
	水 産	34.8	29.9	26.8	4.9	3.6
	家 政	26.5	30.9	36.8	1.5	4.4
	看 護	32.0	34.0	26.0	4.0	4.0
	総 合	28.6	29.9	23.4	11.7	6.5

表41 就職後の生活(就職希望者) 82年調査との比較

(%)						
	とても そう思う	まあ そう思う	小計	(82年)	あまり そう思わない	ぜんぜん そう思わない
一人前に仕事ができるようになるか不安だ	36.8	41.0	77.8	74.0	16.6	5.6
職場で上司や同僚に気がつかって大変だろう	28.9	44.5	73.4	73.2	22.1	4.5
仕事に追いまわられて忙しくなるだろう	28.0	47.1	75.1	71.9	22.3	2.6
自由に使えるお金が増えて楽しいだろう	20.5	31.8	52.3	47.3	38.7	9.0
仕事よりも趣味や家族のことを大切に使うだろう	18.7	46.7	65.4	47.6	29.4	5.2
毎日、はりあいのある生活ができるだろう	16.2	49.1	65.3	54.8	30.4	4.3
そのうち仕事にあきてしまうかもしれない	15.4	30.9	46.3	41.8	40.9	12.8
同じ会社に何年勤められるかわからない	14.8	40.0	54.8	42.0	34.8	10.4
まわりの人は「おとな」として、あつがってくれるだろう	12.7	41.4	54.1	68.5	39.4	6.6

(82年)は82年調査の「とても」+「まあ」そう思う割合

場で上司や同僚に気がつかって大変だろう」も28.9%など、就職後の生活に不安を感じている生徒が少なくない。高校生なのであるから、将来に自信を持ってなくても仕方がないの

かもしれない。

職業についての生徒の反応を表42、表43に掲げた。欠勤や遅刻をせずに、仕事で重要な人になりたいという気持ちが強い。

表42 就職観や職業観（就職希望者）

	(%)				
	とても そう思う	まあ そう思う	どちらとも いえない	あまり そう思わない	まったく そう思わない
欠席や遅刻が多いと就職できない	45.1	37.8	12.2	2.4	2.5
与えられた仕事にかけては、かけがえのない人と呼ばれたい	29.7	32.9	28.3	6.5	2.5
部活動でいろいろな経験をすることは将来の仕事に生かされる	20.9	27.0	30.1	12.1	9.9
進学と同じに就職も成績次第で決まる	19.9	34.7	30.2	11.2	3.9
この学校で教わることは、社会に出て自分に必要なことばかりだ	19.5	39.2	25.9	9.5	5.9
いずれは独立して、自分で事業をやりたい	13.2	12.7	29.6	23.2	21.4
新しい技術の開発や職業の分野を開拓したい	12.9	20.4	42.0	16.1	8.6
フリーターでいろいろな業種や職種を経験してみたい	10.2	16.2	27.3	22.4	23.9

表43 就職観や職業観(就職希望者)×学校種別

	(%)							
	全体	農林	工業	商業	水産	家政	看護	総合
欠席や遅刻が多いと就職できない	45.1	52.0	44.3	46.3	40.6	59.4	40.0	32.0
与えられた仕事にかけては、かけがえのない人と呼ばれたい	29.7	30.3	32.0	30.2	21.7	36.9	44.0	28.0
部活動でいろいろな経験をすることは将来の仕事に生かされる	20.9	16.5	30.6	17.8	19.1	27.4	32.0	2.7
進学と同じに就職も成績次第で決まる	19.9	19.6	21.7	22.8	15.8	14.3	38.8	10.7
この学校で教わることは、社会に出て自分に必要なことばかりだ	19.5	12.8	16.4	25.5	14.6	26.2	48.0	14.7
いずれは独立して、自分で事業をやりたい	13.2	17.9	12.7	6.6	11.9	31.3	10.0	17.6
新しい技術の開発や職業の分野を開拓したい	12.9	12.3	12.7	10.0	13.2	14.3	16.0	20.0
フリーターでいろいろな業種や職種を経験してみたい	10.2	8.4	8.6	10.4	10.2	15.4	20.0	8.0

「とてもそう思う」割合

2 将来の家庭生活

将来の職業への見通しと並んで、家庭生活についてどう感じているのか。表44に示したように、恋愛結婚をして、仕事もきちんとし、趣味に合った暮らしをするのは「絶対できる」

に「たぶん」を含めて、70～80%以上が可能だと思っている。

そして82年調査と比較すると、図10のように、全体として、01年調査の方が明るい見通

表44 将来の可能性 82年調査との比較

	(%)					
	絶対できる	たぶんできる	小計	(82年)	できないかもしれない	できないだろう
趣味に合った暮らしをする	35.9	50.8	86.7	78.2	11.6	1.6
恋愛結婚をする	32.3	39.1	71.4	67.5	21.0	7.5
言われた仕事はきちんとこなす	29.4	58.4	87.8	85.1	11.6	0.6
仕事と家庭を両立させる	28.1	48.2	76.3	70.5	19.3	4.4
自分で納得のいく仕事をする	27.4	53.7	81.1	73.9	18.1	0.7
自分のやっている仕事では誰にも負けない人間になる	20.5	39.8	60.3	50.3	34.8	4.9
職場の雰囲気をも明るくする	17.9	44.9	62.8	65.2	32.4	4.7
常に新しい技術や知識を身につけていく	15.6	49.8	65.4	52.4	30.8	3.8
職場の同僚とうまくやっていく	13.8	68.9	82.7	86.5	16.0	1.3
上司とうまくやっていく	11.9	65.6	77.5	76.9	20.3	2.2
大金持ちになる	9.2	15.5	24.7	10.7	44.9	30.4
自分で仕事を開拓していく	8.4	34.1	42.5	36.5	47.9	9.6
独立して自分の会社や店を持つ	8.0	17.3	25.3	19.2	42.9	31.8
部下や後輩に信頼される	7.6	48.4	56.0	61.1	40.3	3.6
どこでもいいから大学に入る	7.6	21.7	29.3	16.1	26.5	44.2
同期入社の人より早く出世する	6.5	24.7	31.2	19.7	57.1	11.7
大企業に入る	4.8	14.3	19.1	13.7	49.1	31.8
地方公務員になる	4.1	14.3	18.4	14.0	40.4	41.2
大会社の重役になる	3.7	10.0	13.7	5.6	38.2	48.1

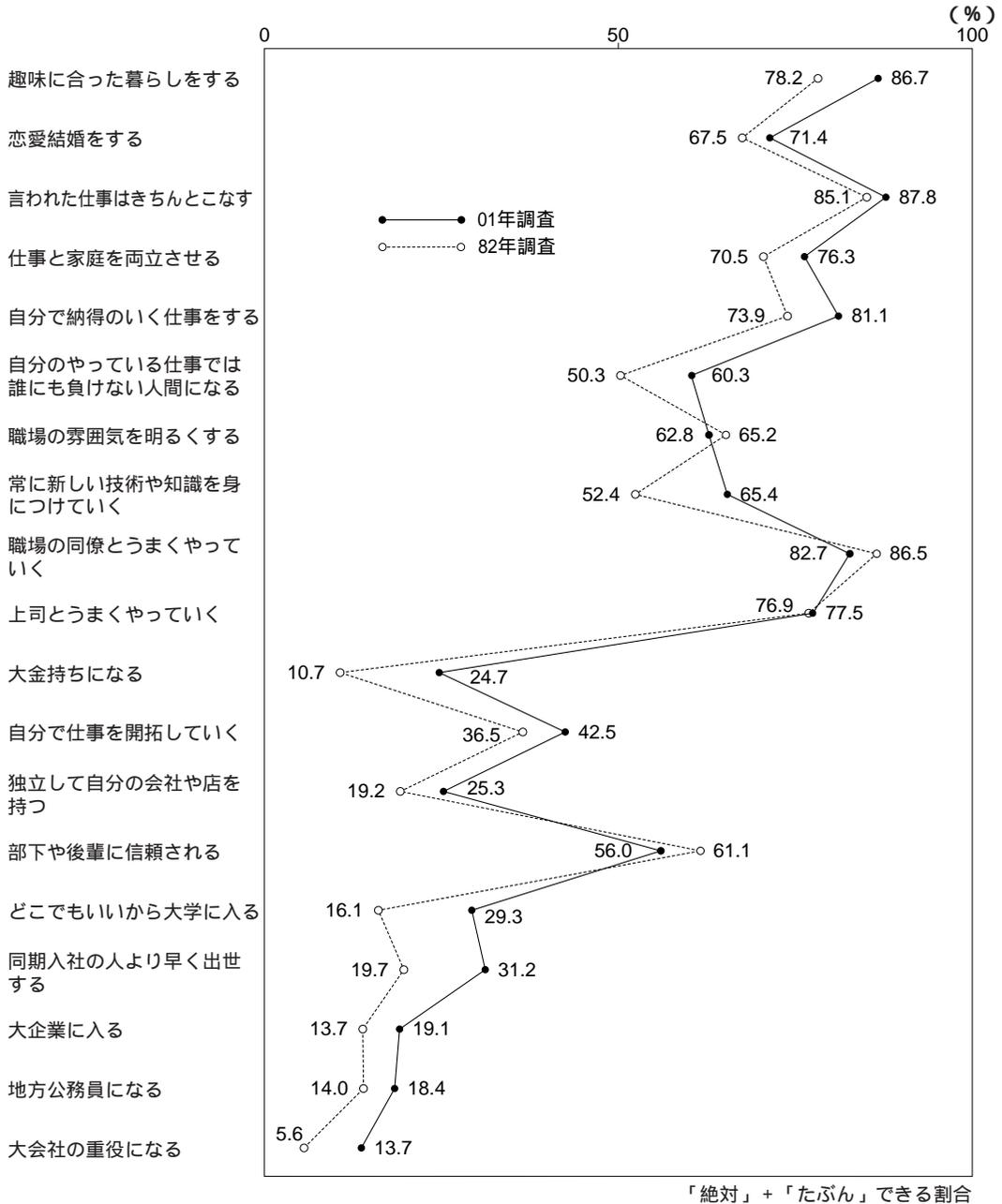
(82年)は82年調査の「絶対」+「たぶん」できる割合

しを抱いている割合が高い。そうした中から、01年調査の方が7%以上高い項目を拾い出すと以下ようになる。

	01年	82年	01年	82年
趣味に合った暮らし	86.7%	78.2%	8.5%	
自分で納得のいく仕事	81.1%	73.9%	7.2%	
仕事では負けない	60.3%	50.3%	10.0%	

常に新しい技術や知識を取得	65.4%	52.4%	13.0%
大金持ちになる	24.7%	10.7%	14.0%
大学に入る	29.3%	16.1%	13.2%
同期入社の人より早く出世する	31.2%	19.7%	11.5%
大会社の重役になる	13.7%	5.6%	8.1%

図10 将来の可能性 82年調査との比較



このようにほとんどすべての領域で、01年調査では将来の見通しが明るさを増している。それだけ、すべての面で、生徒たちの自信が

増加してきたのだろう。

なお、将来の可能性についての学校種別の集計結果は表45に示した。

表45 将来の可能性 × 学校種別

	(%)							
	全体	農林	工業	商業	水産	家政	看護	総合
趣味に合った暮らしをする	86.7	87.3	85.7	83.6	86.2	93.6	83.7	89.0
恋愛結婚をする	71.4	69.4	72.0	73.1	72.8	83.0	63.4	63.5
言われた仕事はきちんとこなす	87.8	86.9	88.2	79.5	85.4	86.5	88.8	88.4
仕事と家庭を両立させる	76.3	77.1	81.2	68.9	84.5	75.8	81.4	70.1
自分で納得のいく仕事をする	81.1	79.6	80.8	79.7	79.5	86.0	82.3	82.3
自分のやっている仕事では誰にも負けない人間になる	60.3	57.1	61.5	57.3	68.4	65.5	54.3	59.4
職場の雰囲気をも明るくする	62.8	61.2	60.6	63.0	64.1	67.8	72.4	58.8
常に新しい技術や知識を身につけていく	65.4	61.8	65.4	61.8	72.2	64.9	64.7	67.8
職場の同僚とうまくやっていく	82.7	83.0	85.8	81.7	85.5	79.3	78.5	82.1
上司とうまくやっていく	77.5	72.9	80.8	74.1	81.3	74.2	81.8	76.5
大金持ちになる	24.7	22.3	26.1	19.7	41.6	22.0	25.1	19.9
自分で仕事を開拓していく	42.5	37.8	42.8	35.1	52.4	44.7	49.3	41.7
独立して自分の会社や店を持つ	25.3	27.2	24.6	18.0	38.0	36.0	11.2	24.3
部下や後輩に信頼される	56.0	49.6	62.0	55.3	61.1	55.7	60.0	50.9
どこでもいいから大学に入る	29.3	20.6	31.3	29.2	21.8	28.4	19.2	44.7
同期入社の人より早く出世する	31.2	26.7	36.3	29.3	46.7	26.9	29.6	24.7
大企業に入る	19.1	13.2	26.0	20.4	30.7	11.0	12.2	15.5
地方公務員になる	18.4	14.7	21.4	17.3	24.8	11.7	25.1	14.5
大会社の重役になる	13.7	12.0	17.8	12.1	23.7	9.8	9.0	9.9

「絶対」+「たぶん」できる割合

将来の結婚の形についての結果は表46の通りである。普通高校と専門高校で数値に開きが認められるかが気になっていたが、表中の

数値のようにほとんど変わりはない。

また、女性の生き方については表47の通りで、ここでは専門高校の男子が女子に、結婚

表46 将来の結婚の形 × 属性

(%)

		どちらかという 夫がしっかり リードする夫婦	お互いに頼り 合っている夫婦	どちらかという 妻がしっかり リードする夫婦	それぞれが独立 した生き方を尊 重している夫婦
専 門	全 体	16.1	65.1	3.6	15.2
	男 子	12.0	72.3	6.0	9.7
	女 子	19.3	59.6	1.7	19.5
普 通	全 体	15.3	60.0	4.5	20.2
	男 子	11.0	68.1	6.7	14.2
	女 子	19.8	51.6	2.2	26.4
学 校 種 別	農 林	18.7	68.4	2.9	10.0
	工 業	15.0	68.0	5.0	12.0
	商 業	15.6	66.2	2.2	16.1
	水 産	13.8	69.3	8.5	8.5
	家 政	14.8	63.2	2.2	19.7
	看 護	22.5	52.6	1.4	23.5
	総 合	14.6	62.5	2.5	20.4

表47 女性の生き方 普通高校との比較

(%)

		結婚したら 家庭に入る	子どもが生まれる まで働く	子育てに めどがついたら また働く	ずっと仕事を 続ける
専 門	全 体	22.5	20.2	41.3	16.0
	男 子	31.1	24.1	32.0	12.8
	女 子	15.9	17.3	48.4	18.4
普 通	全 体	14.1	16.3	45.0	24.6
	男 子	20.0	19.7	39.5	20.8
	女 子	8.0	12.8	50.7	28.5

後、専業主婦を望む割合が31.1%と高いのが目につく。さらに、将来の予測について、表48に82年調査との対比を含めて掲げた。

表49は、結婚してからの家庭生活についての見通しだが、82年調査との対比を図11に示した。その中で、01年調査と82年調査で大きな差がみられたのは、以下の項目だった。

	01年	82年	01年	82年
夕食後の片づけ	83.8%	35.2%	48.6%	
お弁当を作ってあげたい (もらいたい)	67.9%	84.7%	-16.8%	
夫がまあまあの収入 なら専業主婦	54.8%	82.4%	-27.6%	
結婚3～4年は 夫婦だけで生活	42.4%	33.6%	8.8%	
たまにはペアルック で外出	18.6%	59.4%	-40.8%	

全体として、夫が仕事で、妻が専業主婦という性的な役割分業意識が希薄になり、性差の少ないカップルを求めているようにみえる。しかし、こうした傾向は高校生に共通しているのも、専門高校生に固有の現象ではないように思える。

10年後の生活については表50の通りだが、図12でも普通高校と専門高校との間にほとんど差が認められない。繰り返し指摘してきたように、専門高校の生徒と普通高校との生徒の違いが少なくなり、高校生という共通性が増してきたように考えられる。

表51は、10年後の生活についての学校種別の集計結果である。なお、表52に両親の老後についての考え方を示した。

表48 将来の予測 82年調査との比較

		(%)							
		そうなる とは思わ ない	20歳 より前	20～ 22歳	23～ 25歳	26～ 28歳	29～ 31歳	32～ 34歳	35歳 よりあと
一人から 暮らす て	01年	5.9	43.1	36.8	11.7	1.7	0.3	0.1	0.4
	(加算)		49.0	85.8	97.5	99.2	99.5	99.6	100.0
	82年	17.2	27.6	32.4	17.1	3.9	0.9	0.1	0.8
	(加算)		44.8	77.2	94.3	98.2	99.1	99.2	100.0
結婚する	01年	7.3	5.3	22.2	40.9	17.9	4.5	0.7	1.2
	(加算)		12.6	34.8	75.7	93.6	98.1	98.8	100.0
	82年	4.3	3.9	24.8	48.1	15.6	2.3	0.3	0.7
	(加算)		8.2	33.0	81.1	96.7	99.0	99.3	100.0
子どもを持つ	01年	9.0	3.1	12.5	33.2	27.8	10.5	2.3	1.6
	(加算)		12.1	24.6	57.8	85.6	96.1	98.4	100.0
	82年	5.2	1.9	8.5	36.8	34.0	10.7	1.8	1.1
	(加算)		7.1	15.6	52.4	86.4	97.1	98.9	100.0

表49 結婚してからの生活 82年調査との比較

		(%)					
		とても そうしたい	まあ そうしたい	小計	(82年)	あまり そうしたく ない	ぜんぜん そうしたく ない
若いうちは、できるだけ貯金をしたい	全体	43.4	46.8	90.2	85.9	7.8	2.0
	男子	41.7	47.4	89.1	81.8	9.0	1.9
	女子	44.7	46.4	91.1	90.6	7.0	2.0
1か月に1度くらいは、夫婦で外に食事に行きたい	全体	39.2	49.0	88.2	87.2	8.5	3.2
	男子	35.4	53.5	88.9	84.2	7.9	3.2
	女子	42.2	45.6	87.8	90.5	9.0	3.2
夕食後の片づけくらいは手伝ってほしい(手伝いたい)	全体	30.2	53.6	83.8	35.2	12.9	3.2
	男子	21.9	59.4	81.3	31.0	14.9	3.7
	女子	34.8	50.4	85.2	40.1	11.9	2.9
若いうちは、できたら親とは別々に暮らしたい	全体	35.8	37.9	73.7	73.4	20.7	5.6
	男子	38.6	42.5	81.1	72.8	16.6	2.3
	女子	33.7	34.3	68.0	74.1	23.9	8.1
お弁当を毎日作ってあげたい(作ってもらいたい)	全体	24.8	43.1	67.9	84.7	23.3	8.7
	男子	23.9	48.2	72.1	83.4	21.9	6.0
	女子	25.6	39.2	64.8	86.2	24.4	10.8
夫にまあまあの収入があれば、妻は家庭の中にいた方がよい	全体	16.9	37.9	54.8	82.4	31.8	13.4
	男子	21.2	46.1	67.3	87.2	25.6	7.2
	女子	13.7	31.7	45.4	76.7	36.5	18.1
妻が熱を出したら夫は会社を休んでほしい(休みたい)	全体	16.6	35.5	52.1	44.3	34.0	13.8
	男子	27.5	51.7	79.2	53.0	17.0	3.8
	女子	10.5	26.5	37.0	34.3	43.6	19.5
結婚して3～4年は子どもをつくらず夫婦だけの生活を楽しみたい	全体	12.4	30.0	42.4	33.6	44.3	13.4
	男子	13.9	40.5	54.4	33.3	36.3	9.4
	女子	11.5	24.2	35.7	33.8	48.7	15.6
夫(妻)とたまにはペアルックで外出したい	全体	6.7	11.9	18.6	59.4	33.1	48.3
	男子	9.1	17.4	26.5	58.0	36.8	36.7
	女子	4.9	7.6	12.5	60.9	30.2	57.2
夫(妻)よりも、もっとすてきな人ができたら離婚も考えていい	全体	5.0	12.2	17.2	11.1	42.1	40.6
	男子	4.6	10.0	14.6	10.5	42.4	43.0
	女子	5.3	13.4	18.7	11.7	42.0	39.3
夫には仕事をがんばってできるだけ出世してほしい(女子のみ)		30.5	49.7	80.2	80.9	16.9	2.9

(82年)は82年調査の「とても」+「まあ」そうしたい割合

図 11 結婚してからの生活 82年調査との比較

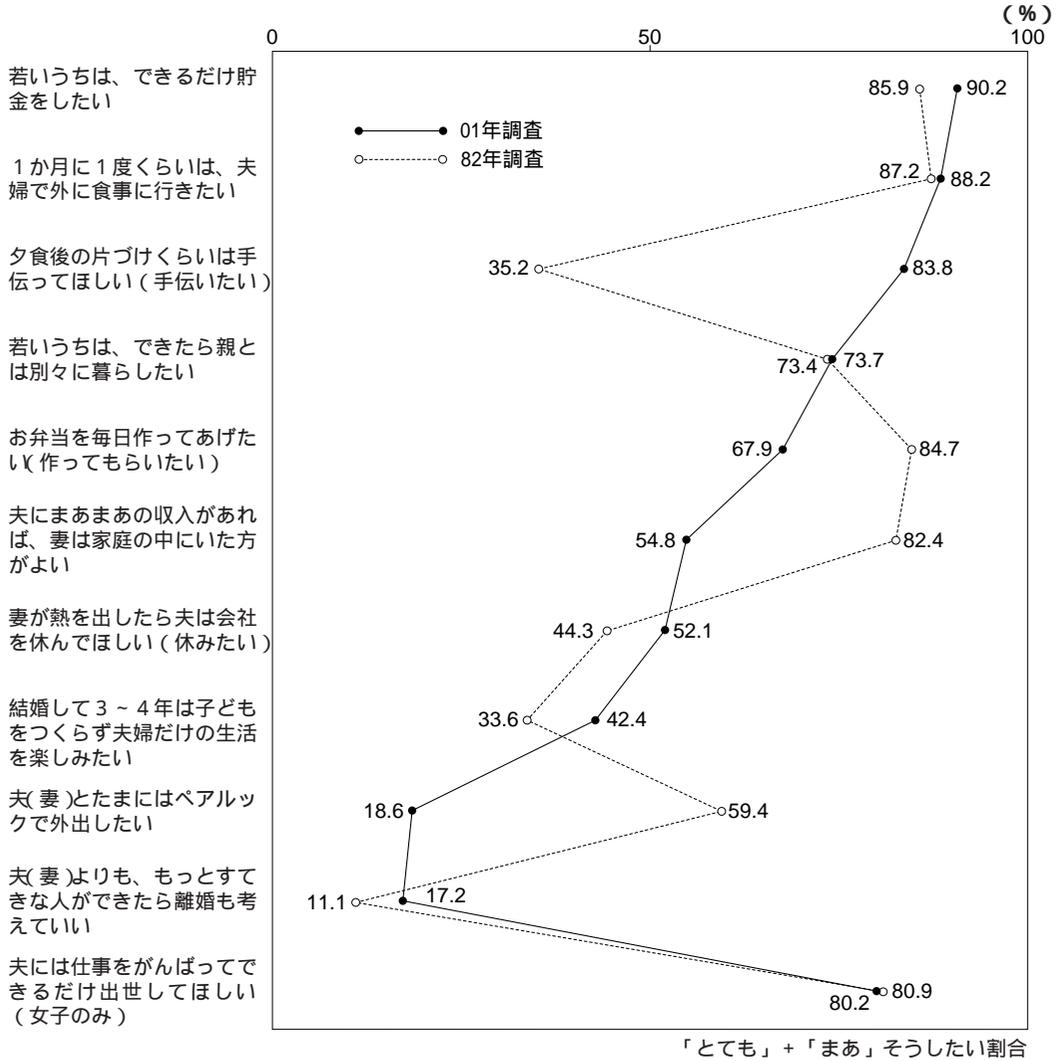


表50 10年後の生活 普通高校との比較

			(%)			
			きっと できている	たぶん できている	たぶん できていない	ぜんぜん できていない
気の合った多くの友人 を持っている	専門	全体	32.6	53.0	12.6	1.8
		男子	32.9	51.8	12.9	2.3
		女子	32.4	53.8	12.4	1.5
	普通	全体	41.2	47.2	9.9	1.7
		男子	37.6	47.6	12.1	2.7
		女子	45.0	46.9	7.6	0.5
自分に合った仕事をし ている	専門	全体	30.9	53.9	14.0	1.2
		男子	29.6	56.3	12.9	1.2
		女子	31.9	52.1	14.8	1.2
	普通	全体	29.7	55.1	13.7	1.5
		男子	27.0	52.9	17.9	2.2
		女子	32.6	57.4	9.2	0.8
幸せな家庭生活を送っ ている	専門	全体	29.5	51.6	15.8	3.2
		男子	26.3	53.6	17.1	3.1
		女子	31.9	50.1	14.8	3.2
	普通	全体	36.9	42.1	16.2	4.8
		男子	34.1	40.8	18.5	6.6
		女子	39.9	43.3	13.8	3.0
趣味の面で満ち足りた 生活を送っている	専門	全体	28.0	51.4	19.4	1.2
		男子	28.4	53.2	17.1	1.3
		女子	27.7	50.0	21.2	1.2
	普通	全体	32.4	45.9	20.2	1.5
		男子	34.7	43.9	19.2	2.2
		女子	29.9	48.0	21.3	0.8
地域の人たちと親しく つきあっている	専門	全体	18.0	56.7	21.9	3.3
		男子	19.0	56.9	20.6	3.5
		女子	17.3	56.6	22.9	3.2
	普通	全体	22.4	51.5	21.4	4.7
		男子	21.1	48.5	23.7	6.7
		女子	23.7	54.7	19.0	2.6

図12 10年後の生活 普通高校との比較

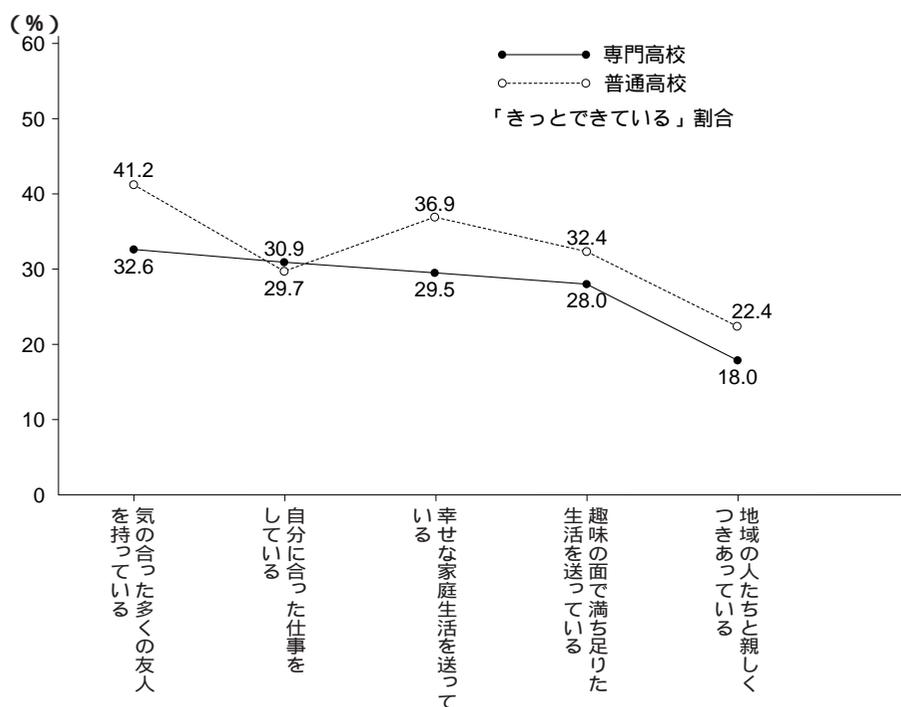


表51 10年後の生活 × 学校種別

	(%)								
	専門	普通	農林	工業	商業	水産	家政	看護	総合
自分に合った仕事をしている	30.9	29.7	25.9	25.1	27.2	27.6	41.4	51.6	31.6
幸せな家庭生活を送っている	29.5	36.9	32.5	24.5	29.4	29.9	40.2	35.4	23.8

「きっとできている」割合

表52 両親の老後 × 学校種別

	(%)								
	専門	普通	農林	工業	商業	水産	家政	看護	総合
自分が一緒に住んで面倒をみる	33.1	21.2	35.4	31.3	29.8	37.4	35.9	43.4	27.2
他のきょうだいに面倒をみてもらう	11.2	10.4	10.1	14.8	10.5	18.9	8.2	4.7	9.1
自分たちの近くに親を呼び寄せ、自分やきょうだいで面倒をみる	41.8	50.7	40.7	36.3	46.9	31.9	48.6	43.4	45.4
親たちだけで暮らし、地域の福祉サービスを利用する	8.3	11.6	7.9	9.3	8.6	5.9	4.1	5.2	12.6
特別養護老人ホームなどの施設に入ってもらう	5.5	6.1	5.8	8.4	4.2	5.9	3.2	3.3	5.7

まとめ

専門高校生について、分析するにあたって、①職業科を対象とした82年調査との比較と、②普通科の生徒を対象とした調査項目との対比の形で、生徒の姿を明らかにしたいと考えた。

82年調査との対比では、7割が就職希望の「勤めるための職業科」から進学希望が5割という「進学を意識した専門高校」へ、学校の性格が大きく変わった。そうした変化を受けつつ、調査結果ではほとんどすべての項目で、生徒たちの評価は好転していた。特に専門領域の実習や講義が生徒の心をとらえていた。専門高校の関係者たちが、専門性を強めることで専門高校の独自性を発揮させようとした試みは軌道に乗ったようにみえる。82年調査より、生徒たちが学校生活を楽しみ、将来に自信を持つようになったのが目につく。

それだけに、多くの項目で専門高校と普通高校との差が縮小し、生徒の意識はほとんど一致する反応を示した。少なくとも現在では、普通高校の受け皿として専門高校が位置し、専門高校生は意欲を喪失しているという図式は妥当性を欠くように思われる。

もちろん、今回の調査は伝統もあり、優れた

実績を示す高校に調査対象を限定した。したがって、この結果が専門高校の平均的な姿とはいえないのかもしれない。それと同時に、今回の結果でも学校間に数値の開きがみられた。家政や看護と農林や水産とでは、生徒の反応に大きな格差が認められる。したがって、専門高校全体が再生したということはできない。しかし、専門高校のあり方を吟味し、専門の授業に工夫をこらし、意欲的に実習を展開する。そうした試みを重ねている学校は、生徒の心をとらえ、学校も活気にあふれている。

そうした意味では、この調査は専門高校の大きな可能性を示唆したように思われる。普通科で、ぼんやりとこれといった専門を持たずに高校生活を送るより、専門高校で自分なりの世界を探りつつ、高校生活を過ごす。水産高校に入ったから水産に進む必要はない。水産に不向きと思ひ、他の領域に進路をとってもいい。いずれにせよ、専門高校では自分の世界を持てる。専門高校はそうした魅力を持っているだけに、これから先、普通高校を陵駕するくらい発展をしてよいのではと思った。